

粕屋町国土強靱化地域計画

令和4年3月策定

令和5年10月改定

粕屋町

目次

第1章 はじめに

第1節 計画策定の趣旨	1
第2節 計画の位置付け	1
第3節 計画期間	3

第2章 国土強靱化の基本的な考え方

第1節 町の概況と過去の災害	4
第2節 基本目標	7

第3章 脆弱性評価

第1節 脆弱性評価の考え方	8
第2節 脆弱性評価において想定するリスク	8
第3節 リスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」の設定	9
第4節 評価の実施手順	10
第5節 評価結果	11
1 直接死を最大限防ぐ	
- 1 地震に起因する建物・交通施設の大規模な倒壊・火災等による多数の死傷者の発生	11
- 2 高潮による多数の死傷者の発生	12
- 3 河川氾濫に起因する浸水による多数の死傷者の発生	12
- 4 土砂災害による死傷者の発生	13
- 5 情報伝達の不備や防災リテラシー教育の不足、深刻な交通渋滞等に起因する避難の遅れによる多数の死傷者の発生	13
2 救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する	
- 1 被災地における水・食料・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の長期停止	14
- 2 警察、消防等の被災による救助・救急活動の停滞	14
- 3 大量かつ長期の帰宅困難者の発生、混乱	15
- 4 被災地における医療機能の麻痺	15
- 5 被災地における疫病・感染症の大規模発生	15
3 必要不可欠な行政機能は確保する	
- 1 行政機関の職員・施設の被災、関係機関間の連携・支援体制の不備による機能の大幅な低下	16
4 必要不可欠な情報通信機能・情報サービスは確保する	
- 1 情報通信・放送ネットワークの麻痺・長期停止等による災害・防災情報の伝達不能	17

5	ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる	
- 1	エネルギーの長期にわたる供給停止	18
- 2	上水道等の長期にわたる供給停止	18
- 3	汚水処理施設等の長期にわたる機能停止	19
- 4	交通インフラの長期にわたる機能停止	19
- 5	防災インフラの長期にわたる機能不全	19
6	経済活動を機能不全に陥らせない	
- 1	サプライチェーンの寸断、金融サービスの機能停止、風評被害等による経済活動の機能不全	20
- 2	食料等の安定供給の停滞	20
7	制御不能な複合災害・二次災害を発生させない	
- 1	ため池、防災インフラ、天然ダム等の損壊・機能不全や堆積した土砂等の流出による多数の死傷者の発生	21
- 2	有害物質の大規模な流出・拡散による被害の拡大	21
- 3	農地・森林等の荒廃による県土の被害	22
8	社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する	
- 1	災害廃棄物の処理停滞による復旧・復興の大幅な遅れ	23
- 2	復旧を支える人材等の不足、より良い復興に向けたビジョンの欠如等により復興できなくなる事態	23
- 3	貴重な文化財や環境的資産の喪失、コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・喪失	24
- 4	事業用地の確保、仮設住宅・仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる事態	24

第4章 国土強靱化のための施策プログラム

第1節	施策プログラム策定の考え方	25
第2節	施策プログラムの推進	25
第3節	施策プログラム	26
1	直接死を最大限防ぐ	
- 1	地震に起因する建物・交通施設の大規模な倒壊・火災等による多数の死傷者の発生	26
- 2	高潮による多数の死傷者の発生	27
- 3	河川氾濫に起因する浸水による多数の死傷者の発生	27
- 4	土砂災害による死傷者の発生	28
- 5	情報伝達の不備や防災リテラシー教育の不足、深刻な交通渋滞等に起因する避難の遅れによる多数の死傷者の発生	28

2	救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する	
- 1	被災地における水・食料・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の長期停止	29
- 2	警察、消防等の被災による救助・救急活動の停滞	29
- 3	大量かつ長期の帰宅困難者の発生、混乱	30
- 4	被災地における医療機能の麻痺	30
- 5	被災地における疫病・感染症の大規模発生	30
3	必要不可欠な行政機能は確保する	
- 1	行政機関の職員・施設の被災、関係機関間の連携・支援体制の不備による機能の大幅な低下	31
4	必要不可欠な情報通信機能・情報サービスは確保する	
- 1	情報通信・放送ネットワークの麻痺・長期停止等による災害・防災情報の伝達不能	32
5	ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる	
- 1	エネルギーの長期にわたる供給停止	33
- 2	上水道等の長期にわたる供給停止	33
- 3	汚水処理施設等の長期にわたる機能停止	34
- 4	交通インフラの長期にわたる機能停止	34
- 5	防災インフラの長期にわたる機能不全	34
6	経済活動を機能不全に陥らせない	
- 1	サプライチェーンの寸断、金融サービスの機能停止、風評被害等による経済活動の機能不全	35
- 2	食料等の安定供給の停滞	35
7	制御不能な複合災害・二次災害を発生させない	
- 1	ため池、防災インフラ、天然ダム等の損壊・機能不全や堆積した土砂等の流出による多数の死傷者の発生	36
- 2	有害物質の大規模な流出・拡散による被害の拡大	36
- 3	農地・森林等の荒廃による県土の被害	36
8	社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する	
- 1	害廃棄物の処理停滞による復旧・復興の大幅な遅れ	37
- 2	復旧を支える人材等の不足、より良い復興に向けたビジョンの欠如等により復興できなくなる事態	37
- 3	貴重な文化財や環境的資産の喪失、コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・喪失	37
- 4	事業用地の確保、仮設住宅・仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる事態	38

第 1 章 はじめに

第 1 節 計画策定の趣旨

我が国では、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の経験を通して、不測の事態に対する社会経済システムの脆弱さが明らかとなり、今後想定される首都直下地震や南海トラフ地震等の大規模自然災害への備えが国家的な重要課題として認知される状況となった。

この状況を踏まえ、国においては、平成 25 年 12 月に「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」（以下「基本法」という。）が施行され、平成 26 年 6 月に基本法に基づく「国土強靱化基本計画」（以下「基本計画」という。）が閣議決定された。平成 30 年 12 月には、国土強靱化を取り巻く社会情勢の変化や策定後の災害から得られた知見等を反映した基本計画の見直しとともに、計画に位置付けた重点化すべきプログラム等を推進するための「防災・減災、国土強靱化のための 3 か年緊急対策」が閣議決定されたところである。

また、福岡県においても、近年多発する自然災害への備えるなどの課題に対応するため、「強さ」と「しなやかさ」を持った安全・安心な福岡県土・地域・経済社会の構築に向けた総合的な防災・減災対策に取り組んでいる状況にある。そして、近年の災害経験と教訓をもとに、福岡県における国土強靱化に向けて、平成 28 年 3 月に「福岡県地域強靱化計画」を策定し、令和元年 6 月には改定を行っている。

粕屋町（以下「本町」という。）においても、国及び福岡県の動向を踏まえて、自然災害に対する脆弱性と真摯に向き合い、本町の国土強靱化を図ることが、今後想定される大規模自然災害から町民の生命・財産を守り、本町の持続的な成長を実現するために不可欠な課題である。このため、国、福岡県、町民、民間事業者等と連携し、これまでの取組をさらに加速していく必要がある。

こうした基本認識のもと、本町における国土強靱化に係る施策を総合的かつ計画的に推進するため、「粕屋町国土強靱化地域計画」（以下「本計画」という。）を策定する。

第 2 節 計画の位置付け

本計画は、基本法第 13 条に基づく国土強靱化地域計画として策定する。

国土強靱化地域計画は、本町の計画における国土強靱化に係る部分についての指針となるべき計画であり、基本計画と調和するものである。そのため、福岡県地域強靱化計画に定められた施策の展開方向と整合を図りつつ、基本計画や福岡県地域強靱化計画と調和した計画とする。

本計画は、アンブレラ計画として位置付けられており、粕屋町総合計画をはじめとする本町の各種計画等について連携するとともに、国土強靱化の観点から必要な見直しを行うとともに、国土強靱化に係る施策を総合的かつ計画的に推進するための計画として位置付ける。

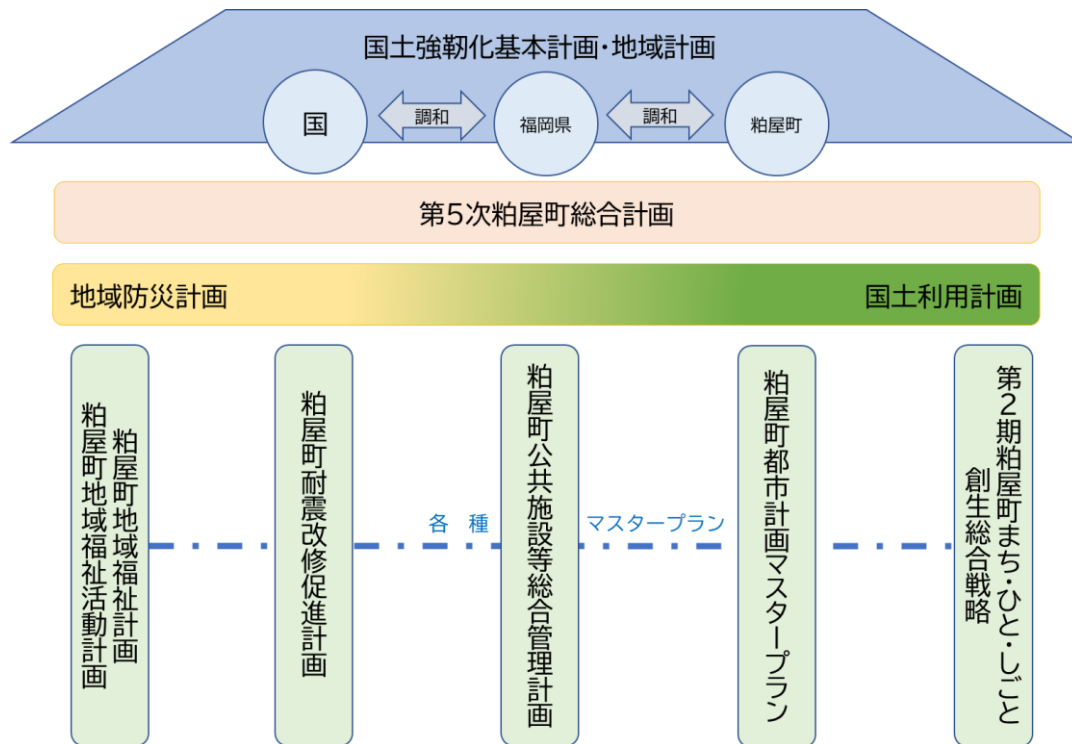


図1 国土強靱化地域計画の位置付け

また、「粕屋町地域防災計画」が、地震や洪水などの「リスク」を特定し、そのリスクへの対応をリスクごとに取りまとめるものであるのに対し、本計画は、あらゆるリスクを見据えつつ、平時の備えを中心とする包括的な対応策を取りまとめるものである。

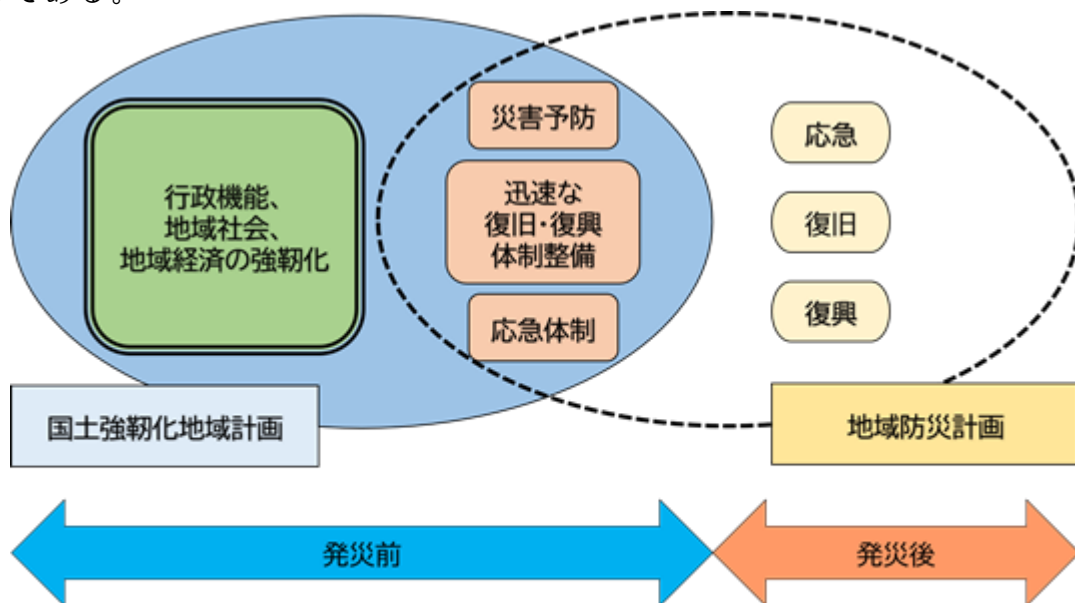


図2 国土強靱化地域計画と地域防災計画の関係

第3節 計画期間

本町における国土強靱化の実現には、長期的な展望を描きつつ、社会情勢の変化、国や福岡県における国土強靱化の状況等に応じた施策の推進が必要となることから、基本計画及び福岡県地域強靱化計画を踏まえ、本計画の計画期間は、5年間（令和4年度～令和8年度）とする。

なお、令和5年7月28日に内閣府による国土強靱化基本計画が変更され、デジタル技術の活用などが新たに基本的な方針に追加された。これに伴い本計画の一部見直しを令和5年10月に実施した。

第2章 国土強靱化の基本的な考え方

第1節 町の概況と過去の災害

1 位置及び面積

本町は、福岡県の北西部に位置し、西に福岡市、北に久山町、東に篠栗町・須恵町、南に志免町と1市4町に隣接しており、総面積は14.13㎢となっている。

JR篠栗線（福北ゆたか線）、JR香椎線、国道201号、福岡都市高速道路4号線、九州自動車道が走る交通利便性の高い町である。

2 地勢及び気候

町域は、平坦な地形であり、傾斜が急な地域は、丸山、江辻山などごく一部である。

三郡山系を水源とする二級河川の多々良川、須恵川が、それぞれ町の北部と南部を東西に流れているほか、南東部には筑前三大大池の一つである鷲与丁池をはじめとする大小のため池が存在する。

気候は冬季に北西季節風の影響を受ける山陰型で、風が強く曇りや雨の日が多い特徴がある。

年間平均気温は15.2℃、年間降水量は1,766mm【出典：CLIMATE-DATA.ORG】である。

3 過去の災害

(1) 風水害

過去には、平成21年7月中国・九州北部豪雨による風水害で被災しているが、近年の梅雨前線による大雨や集中豪雨による対応も必要である。

主な福岡県の被災状況は、次表のとおりである。

表1 風水害履歴

災害年月日	災害原因	被害状況
1885(明治18年) 6月15日~20日	梅雨前線による大雨	浸水被害、瀬ノ下水位2丈5尺5寸(7.72m)
1895(明治28年) 7月24日	暴風雨	家屋倒壊他、死者429(福岡県)
1914(大正3年) 6月18日~25日	梅雨前線による大雨	家屋浸水、筑後川洪水、浸水家屋2,400(三井郡)230(朝倉郡)200(久留米市)2,300(三潴郡)
1921(大正10年) 6月	大雨・大正10年水害・筑後川3大洪水	家屋浸水、筑後川・矢部川洪水、家屋被害11,620(筑後川中下流)、家屋被害11,620(筑後川中下流)、死者13(日田市)
1928(昭和3年) 6月23日~29日	梅雨前線による大雨	家屋浸水、筑後川・矢部川・菊池川洪水、床上浸水609(久留米市)1,125(三井郡)1,900(三潴郡)2,690(朝倉郡)、家屋被害14,434(筑後川中下流)、浸水家屋800(高瀬町)
1941(昭和16年) 6月25~29日	大雨〔昭和16年水害〕	家屋被害、筑後川・遠賀川洪水、家屋被害4,235(筑後川中下流)、死者55(福岡県)
1953(昭和28年) 6月23日~30日	梅雨前線による大雨〔西日本大水害、門司・小倉の崩壊、筑後川水害〕、筑後川3大洪水	河川氾濫、斜面崩壊、土石流、地すべり、住家全壊5,699、半壊11,671、床上浸水199,979、浸水254,664(全体)、死者748、行方不明者265、負傷者2,720(全体)
1973(昭和48年) 7月30日~31日	寒冷前線による大雨	家屋全壊51、半壊46、床上浸水9,250、床下浸水28,175、死者24、行方不明者4、負傷者9(福岡県)
1991(平成3年) 9月30日	前線による大雨、台風第17、18、19号	大規模崩壊、土石流、筑後川風倒木流出、風倒木面積19,000ha、風倒木本数1,500万本(夜明上流域)、死者11(福岡県)
1993(平成5年) 9月2日~4日	台風第13号	土石流、斜面崩壊、床上浸水、洪水、床上浸水937(筑後川流域)995(大分川流域)、183(番匠川流域)、99(山国川流域)、死者1(福岡県)、死者5、行方不明2(大分県)
1997(平成9年) 7月1日~17日	梅雨前線、低気圧による大雨〔針原川土石流〕	崩壊、土石流、床上浸水、白川・緑川・菊池川洪水、49(福岡県)、16(佐賀県)、142(熊本県)、39(大分福岡県)、死者・行方不明者21(全体)
2010(平成22年) 7月10日~14日	梅雨前線による大雨	崖崩れ、河川決壊、家屋全壊、家屋全壊5(福岡県)、床上浸水195(福岡県)、17(佐賀県)、1(熊本県)、崖崩れ568(福岡県)、49(佐賀県)、3(大分県)
2012(平成24年) 7月11日~14日	平成24年7月九州北部豪雨	土砂崩れ、崖崩れ、河川決壊、家屋全壊119(福岡県)、209(熊本県)、34(大分県)、床上浸水1,513(福岡県)、28(佐賀県)、523(熊本県)、990(大分県)、死者4(福岡県)、死者23、行方不明者2(熊本県)、死者3(大分県)
2017(平成29年) 7月5日~7月6日	平成29年7月九州北部豪雨	住家・人的被害・筑後川洪水、家屋全壊287(福岡県)、49(大分県)、1(熊本県)、床上浸水22(福岡県)159(大分県)、1(佐賀県)、2(熊本県)、死者37、行方不明2(福岡県)、死者3(大分県) H30.10.31現在
2020(令和2年) 7月3日~31日	令和2年7月豪雨	洪水、土砂災害、家屋全壊1,489(熊本県)、14(福岡県)、2(佐賀県)、68(大分県)、床上浸水301(熊本県)、682(福岡県)、25(佐賀県)、129(大分県)、死者65、行方不明2(熊本県)、死者2(福岡県)、6(大分県) 消防庁R3.2.26現在

出典：九州災害履歴情報データベース

(2) 地震

福岡県に影響を及ぼした主な地震は、昭和4年福岡県南部地震から昭和10年福岡県南東部地震と昭和初期に発生しており、近年では平成28年熊本地震があるが、本町においては平成17年の福岡県西方沖の地震において、震度5弱を感震している。

表2 地震災害履歴

災害年月日	災害原因	地震発生状況	被災箇所
1929(昭和4年)1月	福岡県南部地震	M5.5	家屋全壊143、 半壊352、法面崩壊19(福岡県) 死者1(福岡県)
1929(昭和4年)8月4日	彦島西方沖地震	震度3	
1929(昭和4年)8月8日	福岡県西部地震	M5.1	
1930(昭和5年)2月5日、7日	福岡県西部地震	M5.0	
1932(昭和7年)7月21日	関門海峡付近地震	震度2	
1932(昭和7年)9月29日	玄界灘地震	震度3	
1933(昭和8年)6月16日～18日	大刀洗地震	震度2	
1934(昭和9年)4月28日	脊振山地震	震度3	
1935(昭和10年)7月17日	山口県西部地震	震度3	
1935(昭和10年)11月23日	福岡県南東部地震	震度2	
2005(平成17年)3月20日	福岡県西方沖地震	M7.0	
2016(平成28年)4月14日～4月16日	平成28年(2016年)熊本地震	M6.5・ M7.3	

出典：九州災害履歴情報データベース、内閣府防災情報のページ

第2節 基本目標

本計画の基本目標は、国の基本計画や福岡県地域強靱化計画を踏まえ、以下のように設定する。

【粕屋町国土強靱化地域計画の基本目標】

- 1 人命の保護を最大限図ること
- 2 町及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること
- 3 町民の財産及び公共施設に係る被害を最小化すること
- 4 迅速に復旧復興すること

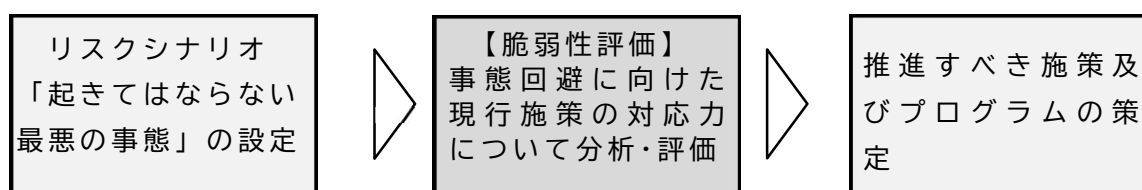
第3章 脆弱性評価

第1節 脆弱性評価の考え方

本計画を策定するにあたり、大規模自然災害等に対する本町の脆弱性を分析・評価すること（以下「脆弱性評価」という。）は、国土強靱化の推進を図る上で必要不可欠な過程であり（基本法第9条第5項）、基本計画や福岡県地域強靱化計画においても、脆弱性評価の結果を踏まえた施策の推進方策が示されている。

本町においては、本計画に掲げる国土強靱化に関する施策の推進に必要な事項を明らかにするため、国が実施した評価手法や「国土強靱化地域計画策定ガイドライン」等及び福岡県作成の「策定支援ツール」をもとに、次の枠組みにより脆弱性評価を行った。

【脆弱性評価を通じた施策検討の流れ】



第2節 脆弱性評価において想定するリスク

基本計画及び福岡県地域強靱化計画を踏まえつつ、本町の特性を考慮した上で、地震災害、豪雨災害及び土砂災害などの、大規模災害全般をリスクの対象とするとともに、ハード・ソフト両面施策の対応に資するリスクの検討も併せて行った。

第3節 リスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」の設定

基本計画で設定されている8つの「事前に備えるべき目標」と45の「起きてはならない最悪の事態」や、福岡県地域強靱化計画で設定されている8つのカテゴリと30のリスクシナリオを基に、本町の地域特性等を踏まえ、8つのカテゴリと26のリスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」を設定した。

【リスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」】

カテゴリ		リスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」	
1	直接死を最大限防ぐ	1-1	地震に起因する建物・交通施設の大規模な倒壊・火災等による多数の死傷者の発生
		1-2	高潮による多数の死傷者の発生
		1-3	河川氾濫等に起因する浸水による多数の死傷者の発生
		1-4	土砂災害による多数の死傷者の発生
		1-5	情報伝達の不備や防災リテラシー教育の不足、深刻な交通渋滞等に起因する避難の遅れによる多数の死傷者の発生
2	救助・救急医療活動が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する	2-1	被災地における水・食料・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の長期停止
		2-2	警察、消防等の被災による救助・救急活動の停滞
		2-3	大量かつ長期の帰宅困難者の発生、混乱
		2-4	被災地における医療機能の麻痺
		2-5	被災地における疫病・感染症の大規模発生
3	必要不可欠な行政機能は確保する	3-1	行政機関の職員・施設の被災、関係機関間の連携・支援体制の不備による機能の大幅な低下
4	必要不可欠な情報通信機能・情報サービスは確保する	4-1	情報通信・放送ネットワークの麻痺・長期停止等による災害・防災情報の伝達不能

カテゴリー		リスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」	
5	ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる	5-1	エネルギーの長期にわたる供給停止
		5-2	上水道等の長期にわたる供給停止
		5-3	汚水処理施設等の長期にわたる機能停止
		5-4	交通インフラの長期にわたる機能停止
		5-5	防災インフラの長期にわたる機能不全
6	経済活動を機能不全に陥らせない	6-1	サプライチェーンの寸断、金融サービスの機能停止、風評被害等による経済活動の機能不全
		6-2	食料等の安定供給の停滞
7	制御不能な複合災害・二次災害を発生させない	7-1	ため池、防災インフラ、天然ダム等の損壊・機能不全や堆積した土砂等の流出による多数の死傷者の発生
		7-2	有害物質の大規模な流出・拡散による被害の拡大
		7-3	農地・森林等の被害による県土の荒廃
8	社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する	8-1	災害廃棄物の処理停滞による復旧・復興の大幅な遅れ
		8-2	復旧を支える人材等の不足、より良い復興に向けたビジョンの欠如等により復興できなくなる事態
		8-3	貴重な文化財や環境的資産の喪失、コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・喪失
		8-4	事業用地の確保、仮設住宅・仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる事態

第4節 評価の実施手順

前項で定めた 26 のリスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」ごとに、関連する現行の施策の推進状況や課題等を整理し、事態の回避に向けた現行施策の対応力について、分析・評価を行った。

評価に当たっては、施策の進捗度や達成度を定量的に把握するため、現状の数値データ及び住民アンケートを実施し、参考指標として活用した。

第5節 評価結果

1 直接死を最大限防ぐ

1-1 地震に起因する建物・交通施設の大規模な倒壊・火災等による多数の死傷者の発生

【評価結果】

○【住宅の耐震化】

旧耐震基準の住宅の居住者に対し、耐震化の必要性や補助制度についての周知が必要である。

○【特定建築物の耐震化】

不特定多数の人が利用する特定建築物の所有者に対して、耐震化の必要性を周知し、耐震化の促進を図ることが必要である。

【公共建築物の適正管理等】

町が所有する建築物の内、幼稚園・保育所など、耐震化が進んでいない建築物については、建築年数や経年劣化等の状況による優先度を決めて、耐震診断・改修を行うことが必要である。併せて、公共施設の個別施設計画に基づき施設の経年劣化等の改善を行い、災害時に避難所等として対応できることが必要である。

【学校施設の適正管理等】

学校施設は平成24年度までに耐震改修が終了しているが、学校施設の計画的かつ効果的な整備の推進が必要である。併せて、避難所としての機能向上を図るため、屋内運動場について、冷暖房設備の検討が必要である。

【町営住宅の適正管理】

町営住宅の計画的な整備と維持管理が必要である。

【指定緊急避難所となる都市公園の適切な維持管理】

指定緊急避難所となっている都市公園の機能を維持するため、適切な維持管理が必要である。【隣保館の適正管理】

隣保館の計画的な維持管理が必要である。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
住宅の耐震化率	85.3%	平成25年度
特定建築物の耐震化率	83.5%	平成25年度
公共建築物の耐震化	耐震診断・改修の実施	令和3年度
学校施設の適正管理	計画的かつ効果的な整備	令和3年度
町営住宅の適正管理	計画的な整備と維持管理	令和3年度
隣保館の適正管理	計画的な維持管理	令和3年度

1-2 高潮による多数の死傷者の発生

【評価結果】

【高潮浸水想定区域等の住民への周知】

県が指定した高潮浸水想定区域等について、住民等への周知が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
高潮浸水ハザードマップの公表	100%	令和3年度

1-3 河川氾濫等に起因する浸水による多数の死傷者の発生

【評価結果】

【河川の整備】

治水安全度の向上を目指し、河川浚せつや河川改修が必要である。

【ため池の調査の実施】

ため池の規模、構造及び下流域の状況等に関して定期的な調査の実施が必要である。

【防災知識の普及啓発】

洪水ハザードマップを定期的に見直すとともに、内水ハザードマップを作成し、防災知識の普及啓発に努める必要がある。

【適切な避難指示等の発令】

避難指示等（避難指示・高齢者避難）の発令基準に基づき、適切な避難指示等の発令が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
治水安全度の向上	準用河川の浚せつ及び改修	令和3年度
ため池ハザードマップの公表	100%	令和3年度
洪水ハザードマップの公表	100%	令和3年度
内水ハザードマップの公表	未作成	令和3年度

1-4 土砂災害による多数の死傷者の発生

【評価結果】

【防災知識の普及啓発】

土砂災害警戒区域マップを活用した防災知識の普及啓発が必要である。

【適切な避難指示等の発令】

避難指示等（避難指示・高齢者避難）の発令基準に基づき、適切な避難指示等の発令が必要である。（再掲）

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
土砂災害警戒区域マップの公表	100%	令和3年度

1-5 情報伝達の不備や防災リテラシー教育の不足、深刻な交通渋滞等に起因する避難の遅れによる多数の死傷者の発生

【評価結果】

○【防災教育の推進】

住民の防災意識の向上を図るため、町広報誌や出前講座などの様々な媒体による啓発が必要である。併せて、各学校における防災教育を充実し、防災知識の普及や意識の向上が必要である。

【災害時の情報伝達手段の充実】

災害時に情報伝達を迅速かつ円滑に実施するために、防災行政無線の更新と併せて、各種防災情報システムの整備、充実が必要である。

○【避難行動要支援者個別計画の策定】

避難行動要支援者の避難行動支援が適切に行われるよう、具体的な避難方法等を定めた個別計画の策定が必要である。

【外国人に対する支援】

災害時に外国人の適時適切な避難が行われるよう、防災メール「まもるくん」外国語版の登録促進が必要である。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
自主防災組織への防災講座の実施	5回／年	令和3年度
避難行動要支援者のうち、地域支援者が決定している人の割合	4.4%	令和元年度

2 救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する

2-1 被災地における水・食料・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の長期停止

【評価結果】

【公助による備蓄・調達の推進】

災害時に必要な物資を備蓄するとともに、さらに物資の安定供給を実現するため、物資の供給等に関する協定の締結先の拡大が必要である。

【自助・共助による備蓄の促進】

住民や事業所等が主体的に災害時の備蓄を行うよう、町広報誌やホームページ等での啓発が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
災害時における物資の供給に関する協定数	7協定	令和3年度
災害用備品を準備している町民の割合	27.6%	令和元年度

2-2 警察、消防等の被災による救助・救急活動の停滞

【評価結果】

○【自主防災組織の充実強化】

全国的に大規模な風水害が多発化しており、浸水被害などが増加していることから、自主防災組織に対する支援活動を通じた、町民の自助・共助意識の向上が求められている。

○【消防団の充実強化】

消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図るため、必要な人員を継続して確保するとともに、消防団の装備や訓練の充実が必要である。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
自主防災組織率	95.8%	令和3年度
消防団員定数充足率	78.5%	令和3年度

2-3 大量かつ長期の帰宅困難者の発生、混乱

【評価結果】

【帰宅困難者に対する支援】

帰宅困難者に対して必要な情報を提供するとともに、帰宅困難者の一時滞在施設を確保できるよう事業所等との協定締結が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
一時滞在施設に関する協定数	未締結	令和3年度

2-4 被災地における医療機能の麻痺

【評価結果】

【医療関係団体との連携】

粕屋町地域防災計画に基づく医療救護活動に関する協定を締結している粕屋医師会との連携強化が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
医療関係団体との連携	粕屋医師会との連携強化	令和3年度

2-5 被災地における疫病・感染症の大規模発生

【評価結果】

○【感染症対策】

大規模災害により災害の長期化がみられる中、安全な避難生活を送れる環境整備が重要となっており、新型コロナなどの感染症への対策も備えた避難所の充実が求められている。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
感染症に備えた避難所の充実	感染症予防や拡大防止を考慮した避難所運営	令和元年度

3 必要不可欠な行政機能は確保する

3-1 行政機関の職員・施設の被災、関係機関間の連携・支援体制の不備による機能の大幅な低下

【評価結果】

【業務継続性の確保】

大規模災害時においても、災害対応等の業務を適切に行なえるよう、粕屋町業務継続計画の継続的な見直しを行い、実効性のある計画とすることが必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
業務継続性の確保	粕屋町業務継続計画の継続的な見直し	令和3年度

4 必要不可欠な情報通信機能・情報サービスは確保する

4-1 情報通信・放送ネットワークの麻痺・長期停止等による災害・防災情報の伝達不能

【評価結果】

【情報伝達手段の整備】

災害時の初動応急活動に係る情報通信の重要性が高いため、町防災行政無線、「防災メール・まもるくん」、LINE・KBCのデータ放送等多様な情報伝達手段を使用して、住民に確実に伝達することが必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
町広報誌等による情報伝達手段の周知	2回／年	令和3年度
ホームページユーザー数	40,091人／月	令和元年度

5 ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる

5-1 エネルギーの長期にわたる供給停止

【評価結果】

【エネルギー対策】

協定企業との連携強化を図るとともに、再生可能エネルギーの導入促進に向けた施策の展開が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
災害時エネルギー供給に関する協定数	4 協定	令和3年度
再生可能エネルギーの導入促進	導入促進を図る施策の検討	令和3年度

5-2 上下水道等の長期にわたる供給停止

【評価結果】

【上水道施設の強化】

災害発生による被害を最小限に留めるため、水上水道施設を強化するとともに、施設の常時監視・点検を強化して保全が必要である。併せて、被災しても速やかに復旧できる水道とするため、重要施設の強化が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
水道施設の維持管理	水道施設の適切な管理・点検	令和3年度

5-3 汚水処理施設等の長期にわたる機能停止

【評価結果】

【下水道施設の改良】

災害発生による被害を最小限に留めるため、管渠の点検を行い、不良部分については補修又は改修が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
下水道施設の維持管理	下水道管渠の適切な管理・点検	令和3年度

5-4 交通インフラの長期にわたる機能停止

【評価結果】

【道路施設の維持管理】

災害時の地域交通網を確保するため、道路施設の適切な維持管理が必要です。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
道路施設の維持管理	道路施設の適切な管理・点検	令和3年度

5-5 防災インフラの長期にわたる機能不全

【評価結果】

【幹線道路の整備】

道路の安全性の確保や利便性の向上を図るため、計画的に都市間幹線道路、地域間幹線道路の整備を図り、良好な交通環境をつくる必要がある。

○【河川の改修】

全国的に大規模な風水害が多発化しており、浸水被害などが増加していることから、今後も国・県との緊密な連携による河川の浚せつ等の災害対策が必要である。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
幹線道路の整備	福岡東環状線などの整備促進	令和3年度
河川の浚せつ等の災害対策	国・県へ災害対策の要望	令和元年度

6 経済活動を機能不全に陥らせない

6-1 サプライチェーンの寸断、金融サービスの機能停止、風評被害等による経済活動の機能不全

【評価結果】

【事業所等の事業継続性確保】

規模事業者の自然災害への備え及び災害発生後の迅速な復旧を支援するため、商工会と連携して策定した事業継続力強化支援計画の定期的な見直しを行い、実効性のある計画とすることが必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
事業所等の事業継続性確保	事業継続力強化支援計画の定期的な見直し	令和元年度

6-2 食料等の安定供給の停滞

【評価結果】

【農地の防災対策】

農地の湛水被害の防止・軽減を図るため、排水機、樋門、排水路等の適切な維持管理が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
農地の湛水被害の防止・軽減	排水機、樋門、排水路等の適切な維持管理	令和3年度

7 制御不能な複合災害・二次災害を発生させない

7-1 ため池、防災インフラ、天然ダム等の損壊・機能不全や堆積した土砂等の流出による多数の死傷者の発生

【評価結果】

【ため池の防災対策】

豪雨や地震等に起因するため池の決壊による災害を防止するため、「防災重点ため池」を中心に、ため池ハザードマップの作成などのソフト対策や堤体・洪水吐等の施設機能の適切な維持、補強に向けたハード対策が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
ため池の防災対策	施設機能の適切な維持	令和3年度

7-2 有害物質の大規模な流出・拡散による被害の拡大

【評価結果】

【有害物質の漏出対策】

災害を起因とする建築物等への被害により有害物質の漏えい及び石綿の飛散が懸念される場合は、有害物質の漏えい及び石綿の飛散を防止するため、施設の点検、応急措置、関係機関への連絡、環境モニタリング等の対策が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
災害を起因とする有害物質の漏えい及び石綿の飛散	件数なし	令和3年度

7-3 農地・森林等の被害による県土の荒廃

【評価結果】

【農業水利施設等の保全】

食料の安定供給以外にも自然環境の保全等の多面的機能を有する農地について、農業用水路の改修等の適切な維持管理が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
農業水利施設等の保全	農業用水路の改修等の適切な維持管理	令和3年度

8 社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する

8-1 災害廃棄物の処理停滞による復旧・復興の大幅な遅れ

【評価結果】

【災害廃棄物処理体制の構築】

災害による建物の消失、倒壊及び解体により発生する廃木材及びコンクリート殻等を適正に処理するため、災害廃棄物処理体制の構築が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
災害廃棄物処理体制の構築		令和3年度

8-2 復旧を支える人材等の不足、より良い復興に向けたビジョンの欠如等により復興できなくなる事態

【評価結果】

【災害ボランティアの活動環境等の整備】

平常時から、地域団体、NPO・ボランティア等の活動支援やリーダーの育成を図るとともに、NPO・ボランティア等と協力して、発災時の災害ボランティアとの連携について検討が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
災害ボランティアの活動環境等の整備	災害ボランティアとの連携	令和3年度

8-3 貴重な文化財や環境的資産の喪失、コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の
衰退・喪失

【評価結果】

【文化財の連絡体制の整備】

災害発生時に速やかに文化財等にかかる被害確認や調査を実施するとともに、復旧に向けた迅速な支援ができるように、連絡相談体制の整備が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
文化財の連絡体制の整備	関係機関との連携強化	令和3年度

8-4 事業用地の確保、仮設住宅・仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる事
態

【評価結果】

【応急仮設住宅の供給体制等の整備】

災害に対する安全性に配慮しつつ、あらかじめ住宅建設に適する建設用地を選定し、建設候補地台帳を作成する等、供給体制の整備が必要である。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	基礎年度
応急仮設住宅の供給体制等の整備	建設用地の選定・確認	令和3年度

第4章 国土強靱化のための施策プログラム

第1節 施策プログラム策定の考え方

「第3章 脆弱性評価」の結果を踏まえ、本町における国土強靱化施策の取組方針を示す「国土強靱化のための施策プログラム」を策定する。

施策プログラムは、脆弱性評価において設定したリスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」を回避するため、本町だけでなく、国、福岡県、民間等との適切な役割分担と連携のもとで行うとともに、施設の老朽化対策や耐震化等の「ハード対策」と情報発信、訓練、防災教育等の「ソフト対策」を組み合わせ、26のリスクシナリオ「起きてはならない最悪の事態」ごとに取りまとめる。

第2節 施策プログラムの推進

施策推進に当たり、個別施策の進捗や実績を定量的に把握するため、可能な限り数値目標（指標）を設定する。

本計画に掲載する目標値については、施策推進のための財源措置等が担保されていないことに加え、国や福岡県が推進主体となる施策も数多くあることなどから、経年的な事業量等を積み上げた指標ではなく、施策推進に関わる本町、国、福岡県、民間等の各関係者が共有する「努力目標」と位置付ける。

また、計画策定後の状況変化等に機動的に対応するため、計画期間中においても、必要に応じ目標値の見直しや新たな設定を行う。

第3節 施策プログラム

1 直接死を最大限防ぐ

1-1 地震に起因する建物・交通施設の大規模な倒壊・火災等による多数の死傷者の発生

【施策プログラム】

○【住宅の耐震化】

旧耐震基準の住宅の居住者に対し、耐震化の必要性や補助制度についての周知を行う。

○【特定建築物の耐震化】

所管行政庁である福岡県と連携しながら、不特定多数の人が利用する特定建築物の所有者に対して、耐震化の必要性を周知し、耐震化を促進する。

【公共建築物の適正管理等】

町が所有する建築物の内、幼稚園・保育所など、耐震化が進んでいない建築物については、建築年数や経年劣化等の状況による優先度を決めて、耐震診断・改修を行う。併せて、公共施設の個別施設計画に基づき施設の経年劣化等の改善を行い、災害時に避難所等として対応できるように整備する。

【学校施設の適正管理等】

学校施設の計画的かつ効果的な整備を進めるとともに、避難所としての機能向上を図るため、屋内運動場について、冷暖房設備の検討を行う。

【町営住宅の適正管理】

町営住宅の計画的な整備と維持管理を行う。

【指定緊急避難所となる都市公園の適切な維持管理】

災害時の避難場所として重要な役割があるため、ユニバーサルデザインにも配慮された防災機能の強化に努める。

【隣保館の適正管理】

隣保館の計画的な維持管理を行う。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
住宅の耐震化率	85.3%	95%	令和5年度
特定建築物の耐震化率	83.5%	95%	令和5年度
公共建築物の耐震化	耐震診断・改修の実施	同左	毎年度
学校施設の適正管理	計画的かつ効果的な整備	同左	毎年度
町営住宅の適正管理	計画的な整備と維持管理	同左	毎年度
隣保館の適正管理	計画的な維持管理	同左	毎年度

1-2 高潮による多数の死傷者の発生

【施策プログラム】

【高潮浸水想定区域等の住民への周知】

県が指定した高潮浸水想定区域等について、高潮ハザードマップの配布などにより、住民等への周知を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
高潮浸水ハザードマップの公表	100%	100%	毎年度

1-3 河川氾濫等に起因する浸水による多数の死傷者の発生

【施策プログラム】

【河川の整備】

治水安全度の向上を目指し、河川浚せつや河川改修を行う。

【ため池の調査の実施】

ため池の規模、構造及び下流域の状況等に関して定期的な調査を行う。

【防災知識の普及啓発】

洪水ハザードマップを定期的に見直すとともに、内水ハザードマップを作成し、防災知識の普及啓発に努める。

【適切な避難指示等の発令】

避難指示等（避難指示・高齢者避難）の発令基準に基づき、適切な避難指示等の発令を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
治水安全度の向上	準用河川の浚せつ及び改修	同左	毎年度
ため池ハザードマップの公表	100%	100%	毎年度
洪水ハザードマップの公表	100%	100%	毎年度
内水ハザードマップの公表	未作成	100%	令和8年度

1-4 土砂災害による多数の死傷者の発生

【施策プログラム】

【防災知識の普及啓発】

土砂災害警戒区域マップを活用した防災知識の普及啓発に努める。

【適切な避難指示等の発令】

避難難指示等（避難指示・高齢者避難）の発令基準に基づき、適切な避難指示等の発令を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
土砂災害警戒区域マップの公表	100%	100%	毎年度

1-5 情報伝達の不備や防災リテラシー教育の不足、深刻な交通渋滞等に起因する避難の遅れによる多数の死傷者の発生

【施策プログラム】

○【防災教育の推進】

町の防災月間・防災の日における防災研修や、学校・地域における防災教育を充実し、防災知識の普及や意識の向上に取り組む。

【災害時の情報伝達手段の充実】

災害時に情報伝達を迅速かつ円滑に実施するために、防災行政無線の更新と併せて、各種防災情報システムの整備、拡充を行う。併せて、住民の防災意識の向上を図るため、町広報誌や出前講座などの様々な媒体による啓発を行う。

○【避難行動要支援者個別計画の策定】

避難行動要支援者の避難行動支援が適切に行われるよう、具体的な避難方法等を定めた個別計画の策定に努める。

【外国人に対する支援】

災害時に外国人の適時適切な避難が行われるよう、防災メール「まもるくん」外国語版の登録促進に努める。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
自主防災組織への防災講座の実施	5回／年		毎年度
避難行動要支援者のうち、地域支援者が決定している人の割合	4.4%	100%	令和7年度

2 救助・救急、医療活動等が迅速に行われるとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する

2-1 被災地における水・食料・電力・燃料等、生命に関わる物資・エネルギー供給の長期停止

【施策プログラム】

【公助による備蓄・調達の推進】

災害時に必要な物資を備蓄するとともに、さらに物資の安定供給を実現するため、物資の供給等に関する協定の締結先の拡充を行う。

【自助・共助による備蓄の促進】

住民や事業所等が主体的に災害時の備蓄を行うよう、町広報誌やホームページ等で啓発する。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
災害時における物資の供給に関する協定数	7協定		令和8年度
災害用備品を準備している町民の割合	27.6%		令和7年度

2-2 警察、消防等の被災による救助・救急活動の停滞

【施策プログラム】

○【自主防災組織の充実強化】

自主防災組織の活動を支援し、町民の自助・共助意識を高め、地域防災力の強化を図る。

○【消防団の充実強化】

あらゆる災害に対する地域防災の要である消防団活動を維持するため、消防団員を確保し、体制の強化を図る。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
自主防災組織率	95.8%	100%	令和8年度
消防団員定数充足率	78.5%	100%	令和8年度

2-3 大量かつ長期の帰宅困難者の発生、混乱

【施策プログラム】

【帰宅困難者に対する支援】

帰宅困難者に対して必要な情報を提供するとともに、帰宅困難者の一時滞在施設を確保できるよう事業所等との協定締結を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
一時滞在施設に関する協定数	未締結		令和8年度

2-4 被災地における医療機能の麻痺

【施策プログラム】

【医療関係団体との連携】

粕屋町地域防災計画に基づく医療救護活動に関する協定を締結している粕屋医師会と連携強化に努める。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
医療関係団体との連携	粕屋医師会との連携強化	同左	毎年度

2-5 被災地における医療機能の麻痺

【施策プログラム】

○【感染症対策】

感染症に対する備えとして、新たな施設の避難所としての活用や感染症対策に関する物資の備蓄を進め、災害時における感染症予防や拡大防止を考慮した避難所運営に取り組む。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
感染症に備えた避難所の充実	感染症予防や拡大防止を考慮した避難所運営	同左	毎年度

3 必要不可欠な行政機能は確保する

3-1 行政機関の職員・施設の被災、関係機関間の連携・支援体制の不備による機能の大幅な低下

【施策プログラム】

【業務継続性の確保】

大規模災害時においても、災害対応等の業務を適切に行なえるよう、粕屋町業務継続計画を実効性のある計画とするため、継続的な見直しを行う。

【デジタル技術の活用】

災害発生時の行政機関の職員による災害対応は迅速かつ適切な情報共有が求められるため、デジタル技術の活用を検討し、実施運用を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
業務継続性の確保	粕屋町業務継続計画の継続的な見直し	同左	毎年度
デジタル技術の活用	SNS等を利用した職員間の情報共有方法の確立及び運用	同左	毎年度

4 必要不可欠な情報通信機能・情報サービスは確保する

4-1 情報通信・放送ネットワークの麻痺・長期停止等による災害・防災情報の伝達不能

【施策プログラム】

【情報伝達手段の整備】

災害時の初動応急活動に係る情報通信の重要性が高いため、町防災行政無線、「防災メール・まもるくん」、LINE・KBCのデータ放送等多様な情報伝達手段を使用して、住民に確実な伝達を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
町広報誌等による情報伝達手段の周知	2回／年		毎年度
ホームページユーザー数	40,091人／月	60,000人／月	令和7年度

5 ライフライン、燃料供給関連施設、交通ネットワーク等の被害を最小限に留めるとともに、早期に復旧させる

5-1 エネルギーの長期にわたる供給停止

【施策プログラム】

【エネルギー対策】

協定企業との連携強化を図るとともに、再生可能エネルギーの導入促進に向けた施策の展開に努める。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
災害時エネルギー供給に関する協定数	4 協定		令和8年度
再生可能エネルギーの導入促進	導入促進を図る施策の検討	同左	毎年度

5-2 上下水道等の長期にわたる供給停止

【施策プログラム】

【上水道施設の強化】

災害発生による被害を最小限に留めるため、水上水道施設を強化するとともに、施設の常時監視・点検を強化して保全に努める。併せて、被災しても速やかに復旧できる水道とするため、重要施設の強化に努める。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
水道施設の維持管理	水道施設の適切な管理・点検	同左	毎年度

5-3 汚水処理施設等の長期にわたる機能停止

【施策プログラム】

【下水道施設の改良】

災害発生による被害を最小限に留めるため、管渠の点検を行い、不良部分については補修、又は改修に努める。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
下水道施設の維持管理	下水道管渠の適切な管理・点検	同左	毎年度

5-4 交通インフラの長期にわたる機能停止

【施策プログラム】

【道路施設の維持管理】

道路の安全性を確保するため、道路橋梁の定期点検を実施し、長寿命化計画に沿って補修工事を推進する。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
道路施設の維持管理	道路施設の適切な管理・点検	同左	毎年度

5-5 防災インフラの長期にわたる機能不全

【施策プログラム】

【幹線道路の整備】

生活道路における通過交通の減少と交通渋滞の緩和をめざし、周辺都市と連絡する都市間幹線道路網を形成する福岡東環状線、粕屋久山線などの整備を促進する。

○【河川の改修】

治水安全度の向上を目指し、河川の浚せつ等を国・県へ継続的に要望を行う。

○は重点化施策を指す。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
幹線道路の整備	福岡東環状線、粕屋久山線などの整備促進	同左	毎年度
河川の浚せつ等の災害対策	国・県へ災害対策の要望	同左	毎年度

6 経済活動を機能不全に陥らせない

6-1 サプライチェーンの寸断、金融サービスの機能停止、風評被害等による経済活動の機能不全

【施策プログラム】

【事業所等の事業継続性確保】

事業継続力強化支援計画を実効性のある計画とするため、商工会と連携して、定期的な見直しを行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
事業所等の事業継続性確保	事業継続力強化支援計画の定期的な見直し	令和元年度	令和6年度

6-2 食料等の安定供給の停滞

【施策プログラム】

【農地の防災対策】

農地の湛水被害の防止・軽減を図るため、排水機、樋門、排水路等の適切な維持管理を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
農地の湛水被害の防止・軽減	排水機、樋門、排水路等の適切な維持管理	同左	毎年度

7 制御不能な複合災害・二次災害を発生させない

7-1 ため池、防災インフラ、天然ダム等の損壊・機能不全や堆積した土砂等の流出による多数の死傷者の発生

【施策プログラム】

【ため池の防災対策】

豪雨や地震等に起因するため池の決壊による災害を防止するため、「防災重点ため池」を中心に、ため池ハザードマップの作成、低水位管理などのソフト対策や堤体・洪水吐等の施設機能の適切な維持、改修に向けたハード対策を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
ため池の防災対策	施設機能の適切な維持	同左	毎年度

7-2 有害物質の大規模な流出・拡散による被害の拡大

【施策プログラム】

【有害物質の漏出対策】

災害を起因とする建築物等への被害により有害物質の漏えい及び石綿の飛散が懸念される場合は、有害物質の漏えい及び石綿の飛散を防止するため、施設の点検、応急措置、関係機関への連絡、環境モニタリング等の対策を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
災害を起因とする有害物質の漏えい及び石綿の飛散	件数なし	同左	毎年度

7-3 農地・森林等の被害による県土の荒廃

【施策プログラム】

【農業水利施設等の保全】

食料の安定供給以外にも自然環境の保全等の多面的機能を有する農地について、農業用水路の改修等の適切な維持管理を行う。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
農業水利施設等の保全	農業用水路の改修等の適切な維持管理	同左	毎年度

8 社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する

8-1 災害廃棄物の処理停滞による復旧・復興の大幅な遅れ

【施策プログラム】

【災害廃棄物処理体制の構築】

災害による建物の消失、倒壊及び解体により発生する廃木材及びコンクリートがら等を適正に処理するため、災害廃棄物処理体制の構築に努める。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
災害廃棄物処理体制の構築	処理体制の構築の検討	同左	毎年度

8-2 復旧を支える人材等の不足、より良い復興に向けたビジョンの欠如等により復興できなくなる事態

【施策プログラム】【施策プログラム】

【災害ボランティアの活動環境等の整備】

平常時から、地域団体、NPO・ボランティア等の活動支援やリーダーの育成を図るとともに、NPO・ボランティア等と協力して、発災時の災害ボランティアとの連携を推進する。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
災害ボランティアの活動環境等の整備	災害ボランティアとの連携	同左	毎年度

8-3 貴重な文化財や環境的資産の喪失、コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・喪失

【施策プログラム】

【文化財の連絡体制の整備】

災害発生時に速やかに文化財等にかかる被害確認や調査を実施するとともに、復旧及び継承に向けた迅速な支援ができるように、連絡相談体制の整備に努める。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
文化財の連絡体制の整備	関係機関との連携強化	同左	毎年度

8-4 事業用地の確保、仮設住宅・仮店舗・仮事業所等の整備が進まず復興が大幅に遅れる
事態

【応急仮設住宅の供給体制等の整備】

災害に対する安全性に配慮しつつ、あらかじめ住宅建設に適する建設用地を選定し、建設候補地台帳を作成する等、供給体制の整備に努める。

【KPI】

指標名	基礎値（基礎項目）	目標値（目標項目）	目標年度
応急仮設住宅の供給体制の整備	建設用地の選定・確認	同左	毎年度

住民アンケート結果

粕屋町 国土強靱化計画 町民意向

<調査方法>

調査方法：郵送による配布・回収

調査対象：粕屋町民を対象に無作為抽出した 2,000 人

調査期間：令和 3 年 10 月 5 日～11 月 5 日

※（問 8）及び（5. 自由な意見）は記述式のため、別途参照

<回収結果>

町民 2,000 人を対象に調査票を配布し、回収数 813 票、回収率 40.7%でした。

行政区	配布数			回収数	回収率	回収数		回収率	
	男性	女性	計			男性	女性	男性	女性
大隈	40	34	74	37	50.0%	16	21	21.6%	61.8%
上大隈	16	19	35	14	40.0%	6	8	17.1%	42.1%
江辻	33	32	65	23	35.4%	12	11	18.5%	34.4%
戸原	51	51	102	66	64.7%	33	33	32.4%	64.7%
長者原上	39	40	79	35	44.3%	18	17	22.8%	42.5%
長者原中	43	55	98	36	36.7%	13	23	13.3%	41.8%
長者原下	49	53	102	32	31.4%	13	19	12.7%	35.8%
内橋 1	37	44	81	18	22.2%	7	11	8.6%	25.0%
内橋 2	23	31	54	20	37.0%	8	12	14.8%	38.7%
内橋 3	24	15	39	11	28.2%	3	8	7.7%	53.3%
朝日	15	9	24	6	25.0%	3	3	12.5%	33.3%
長戸	42	38	80	25	31.3%	11	14	13.8%	36.8%
多の津	4	1	5	0	0.0%	0	0	0.0%	0.0%
サンライフ	12	9	21	8	38.1%	4	4	19.0%	44.4%
酒殿	32	45	77	28	36.4%	9	19	11.7%	42.2%
甲仲原	40	52	92	47	51.1%	27	20	29.3%	38.5%
駕輿丁	22	24	46	16	34.8%	6	10	13.0%	41.7%
花ヶ浦	87	91	178	65	36.5%	27	38	15.2%	41.8%
乙仲原東	68	57	125	43	34.4%	22	21	17.6%	36.8%
乙仲原西	83	75	158	51	32.3%	29	22	18.4%	29.3%
若宮	55	53	108	34	31.5%	18	16	16.7%	30.2%
原町	58	75	133	78	58.6%	25	53	18.8%	70.7%
阿恵	34	28	62	28	45.2%	15	13	24.2%	46.4%
柚須	93	69	162	58	35.8%	31	27	19.1%	39.1%
わからない				18					
不明				9					
未回答				7					
	1,000	1,000	2,000	813	40.7%				

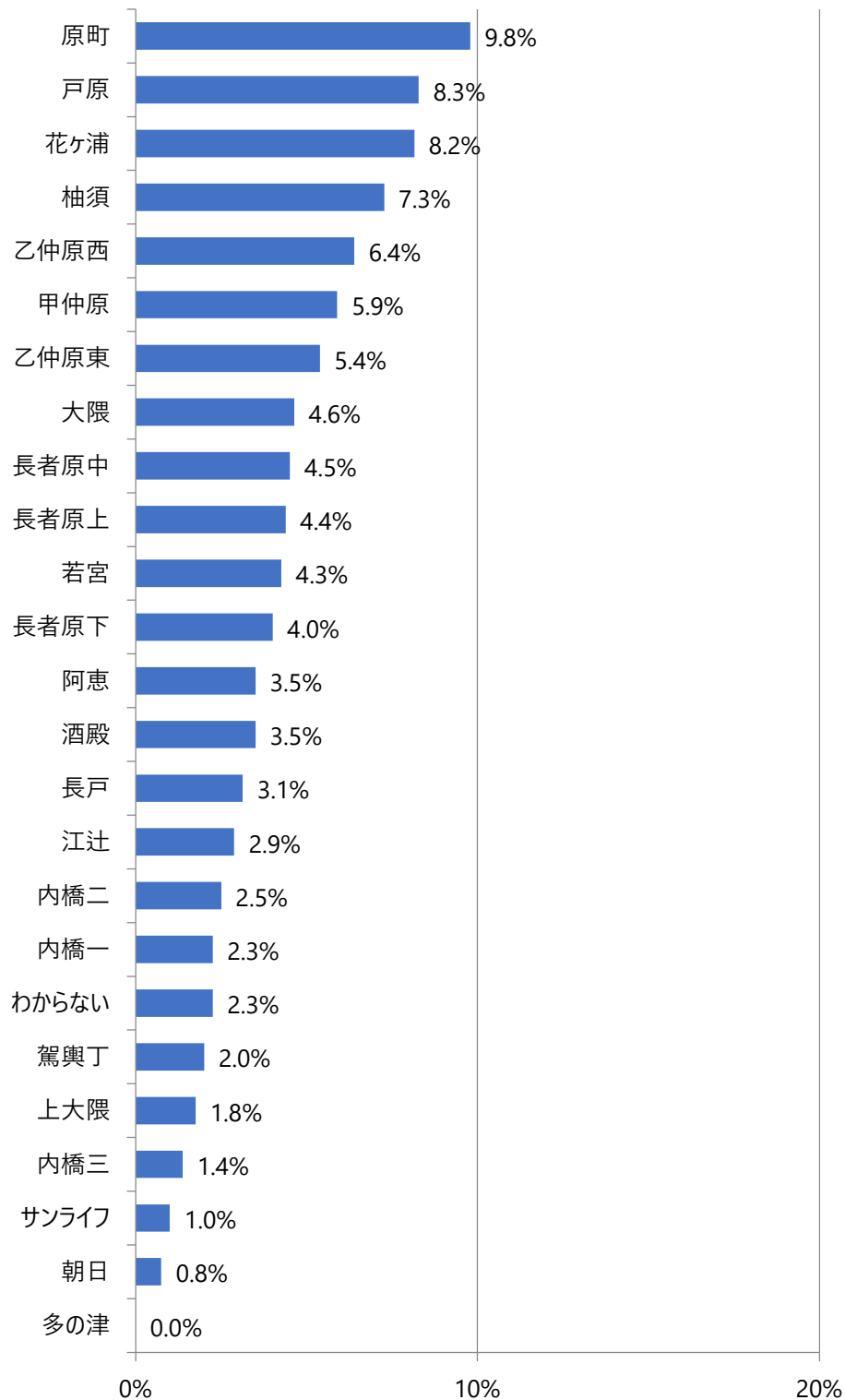
※割合合計が計算の都合上、100%にならない場合があります。

1. 回答者の居住状況

(1) 居住行政区（問1）

回答者の居住行政区は、「原町」が約1割と最も多く、次いで「戸原」、「花ヶ浦」となっています。

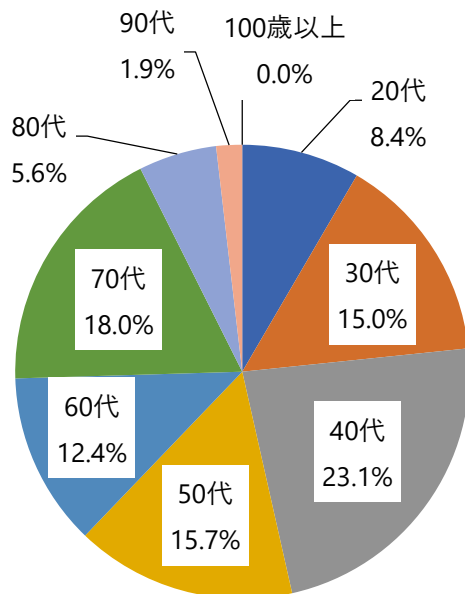
<全体集計結果>



(2) 年齢 (問2)

回答者の年齢は、「40代」が2割強と最も多く、次いで「70代」が2割弱となっています。

<全体集計結果>

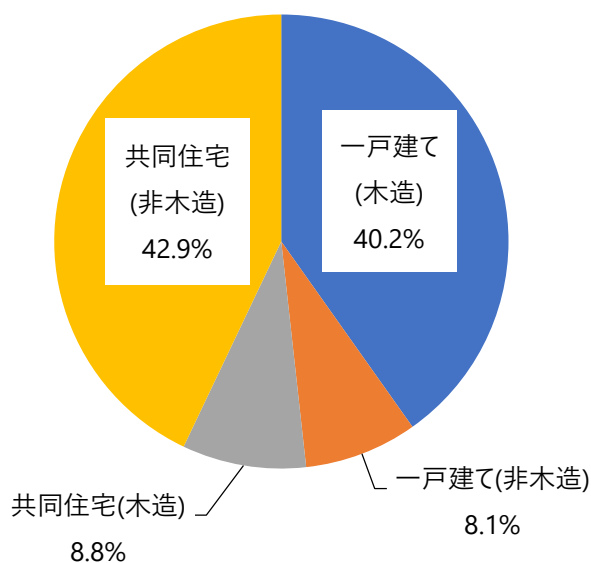


(3) 住まいの種類 (問3)

回答者の住まいの種類は、「共同住宅(非木造)」が4割強と最も多く、次いで「一戸建て(木造)」が約4割となっています。

行政区別においても全体と同様に、「一戸建て(木造)」、「共同住宅(非木造)」が多くなっています。

<全体集計結果>



<行政区別集計結果>

NO	行政区	一戸建て(木造)	一戸建て(非木造)	共同住宅(木造)	共同住宅(非木造)
1	大隈	27.0%	8.1%	8.1%	56.8%
2	上大隈	57.1%	0.0%	14.3%	28.6%
3	江辻	73.9%	21.7%	0.0%	4.3%
4	戸原	40.9%	9.1%	9.1%	40.9%
5	長者原上	42.9%	8.6%	5.7%	42.9%
6	長者原中	38.9%	8.3%	2.8%	50.0%
7	長者原下	43.8%	15.6%	9.4%	31.3%
8	内橋一	66.7%	11.1%	0.0%	22.2%
9	内橋二	25.0%	15.0%	0.0%	60.0%
10	内橋三	36.4%	27.3%	0.0%	36.4%
11	朝日	50.0%	0.0%	33.3%	16.7%
12	長戸	32.0%	4.0%	8.0%	56.0%
13	多の津				
14	サンライフ	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
15	酒殿	74.1%	11.1%	3.7%	11.1%
16	甲仲原	37.0%	8.7%	23.9%	30.4%
17	駕輿丁	81.3%	6.3%	12.5%	0.0%
18	花ヶ浦	52.3%	9.2%	7.7%	30.8%
19	乙仲原東	46.5%	9.3%	14.0%	30.2%
20	乙仲原西	17.6%	3.9%	2.0%	76.5%
21	若宮	47.1%	0.0%	0.0%	52.9%
22	原町	44.9%	7.7%	15.4%	32.1%
23	阿恵	40.7%	3.7%	14.8%	40.7%
24	柚須	19.0%	5.2%	8.6%	67.2%
25	わからない	5.6%	5.6%	11.1%	77.8%

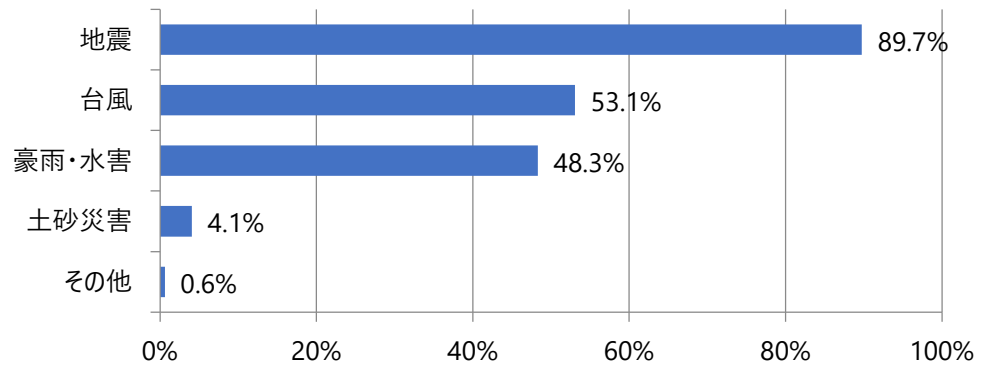
2. 大規模自然災害に対する考えについて

(1) 脅威に感じる災害（複数回答2つまで）（問4）

脅威に感じる災害は、「地震」が約9割と最も多く、次いで「台風」が5割強、「豪雨・水害」が5割弱となっています。

行政区別においても全体と同様の結果となっています。

<全体集計結果>



※回答者（780人）の割合

<行政区別集計結果>

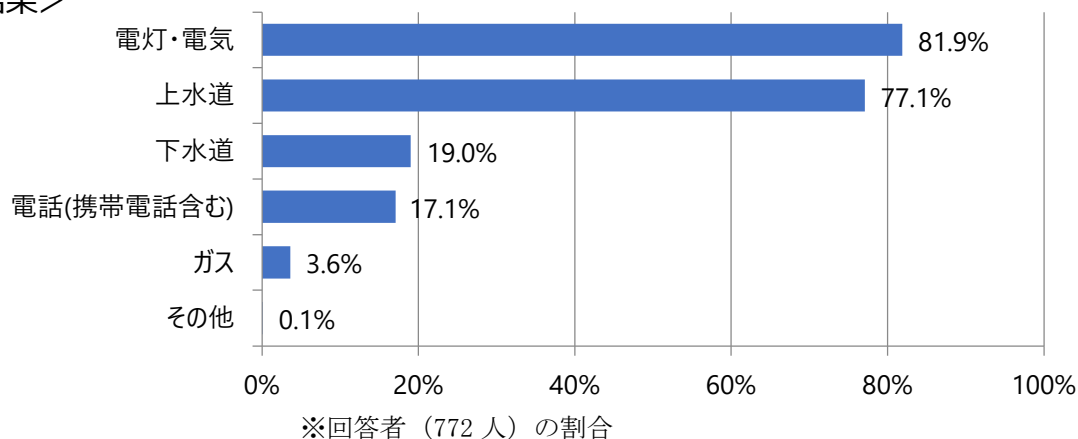
NO	項目	地震	台風	土砂災害	豪雨・水害	その他
1	大隈	72.2%	44.4%	16.7%	63.9%	0.0%
2	上大隈	71.4%	71.4%	14.3%	42.9%	0.0%
3	江辻	76.2%	38.1%	9.5%	66.7%	4.8%
4	戸原	90.6%	42.2%	4.7%	59.4%	0.0%
5	長者原上	85.3%	64.7%	8.8%	32.4%	0.0%
6	長者原中	94.1%	47.1%	8.8%	47.1%	0.0%
7	長者原下	90.3%	64.5%	0.0%	32.3%	3.2%
8	内橋一	94.1%	52.9%	5.9%	47.1%	0.0%
9	内橋二	100.0%	57.9%	0.0%	36.8%	5.3%
10	内橋三	100.0%	36.4%	9.1%	54.5%	0.0%
11	朝日	66.7%	50.0%	16.7%	66.7%	0.0%
12	長戸	100.0%	54.2%	0.0%	33.3%	0.0%
13	多の津					
14	サンライフ	87.5%	50.0%	0.0%	62.5%	0.0%
15	酒殿	100.0%	52.0%	0.0%	48.0%	0.0%
16	甲仲原	84.8%	63.0%	0.0%	45.7%	0.0%
17	駕輿丁	93.3%	93.3%	0.0%	6.7%	0.0%
18	花ヶ浦	96.8%	66.7%	3.2%	28.6%	0.0%
19	乙仲原東	90.2%	51.2%	2.4%	53.7%	0.0%
20	乙仲原西	89.6%	56.3%	4.2%	45.8%	0.0%
21	若宮	90.6%	46.9%	0.0%	56.3%	3.1%
22	原町	89.3%	57.3%	4.0%	44.0%	0.0%
23	阿恵	81.5%	48.1%	0.0%	59.3%	3.7%
24	柚須	89.5%	42.1%	3.5%	63.2%	0.0%
25	わからない	100.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%
	全体	89.6%	53.5%	4.2%	47.9%	0.7%

(2) 影響が大きいライフライン（複数回答2つまで）（問5）

影響が大きいライフラインは、「電灯・電気」が8割強と最も多く、次いで「上水道」が8割弱となっています。

行政区別においても全体と同様の結果となっています。

<全体集計結果>



<行政区別集計結果>

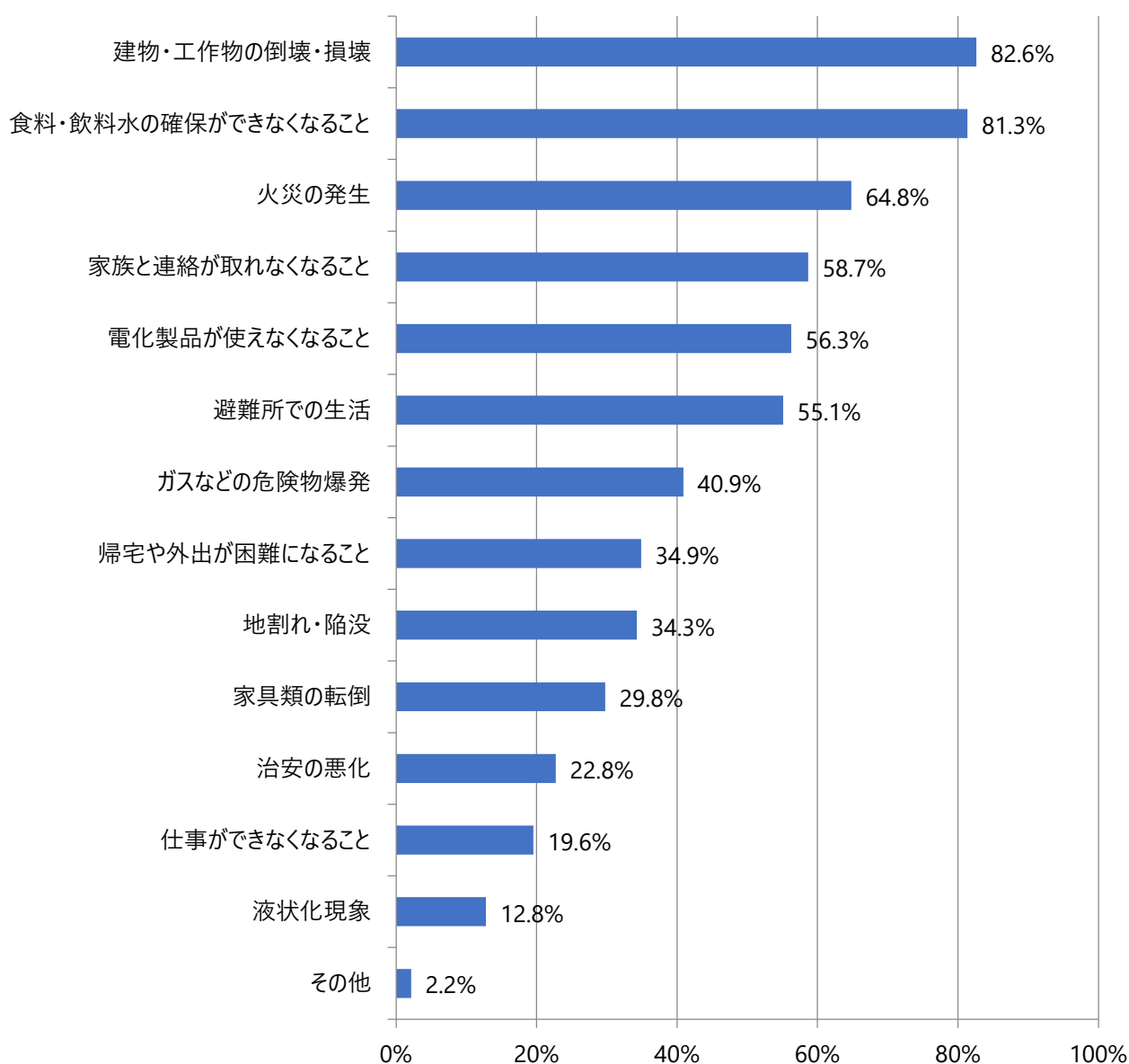
NO	項目	上水道	下水道	電灯・電気	ガス	電話 (携帯電話 含む)	その他
1	大隈	58.3%	25.0%	86.1%	0.0%	25.0%	0.0%
2	上大隈	78.6%	14.3%	92.9%	0.0%	14.3%	0.0%
3	江辻	71.4%	9.5%	95.2%	4.8%	14.3%	0.0%
4	戸原	71.9%	23.4%	81.3%	6.3%	17.2%	0.0%
5	長者原上	70.6%	17.6%	88.2%	5.9%	14.7%	0.0%
6	長者原中	75.8%	21.2%	81.8%	6.1%	15.2%	0.0%
7	長者原下	90.3%	16.1%	80.6%	0.0%	9.7%	0.0%
8	内橋一	75.0%	0.0%	100.0%	12.5%	12.5%	0.0%
9	内橋二	84.2%	15.8%	78.9%	0.0%	15.8%	5.3%
10	内橋三	90.0%	20.0%	80.0%	0.0%	10.0%	0.0%
11	朝日	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
12	長戸	91.3%	0.0%	82.6%	0.0%	26.1%	0.0%
13	多の津						
14	サンライフ	75.0%	12.5%	75.0%	12.5%	25.0%	0.0%
15	酒殿	64.0%	32.0%	76.0%	0.0%	24.0%	0.0%
16	甲仲原	73.3%	26.7%	71.1%	2.2%	26.7%	0.0%
17	駕輿丁	85.7%	28.6%	78.6%	0.0%	7.1%	0.0%
18	花ヶ浦	75.8%	27.4%	75.8%	3.2%	16.1%	0.0%
19	乙仲原東	78.0%	22.0%	92.7%	2.4%	4.9%	0.0%
20	乙仲原西	70.8%	14.6%	87.5%	10.4%	16.7%	0.0%
21	若宮	77.4%	19.4%	77.4%	0.0%	22.6%	0.0%
22	原町	82.7%	14.7%	77.3%	5.3%	18.7%	0.0%
23	阿恵	74.1%	29.6%	81.5%	0.0%	14.8%	0.0%
24	袖須	84.2%	10.5%	86.0%	1.8%	17.5%	0.0%
25	わからない	77.8%	16.7%	66.7%	11.1%	27.8%	0.0%
	全体	76.8%	19.1%	81.8%	3.7%	17.3%	0.1%

(3) 災害時心配すること（複数回答）（問6）

災害時心配することは、「建物・工作物の倒壊・損壊」、「食料・飲料水の確保ができなくなる
こと」が8割強、次いで、「火災の発生」が6割半ばとなっています。

行政区別においては、「内橋三」で「火災の発生」が最も多く、その他の行政区では、「建物・
工作物の倒壊・損壊」、「食料・飲料水の確保ができなくなること」との回答が多くなっていま
す。

<全体集計結果>



※回答者（782人）の割合

<行政区別集計結果>

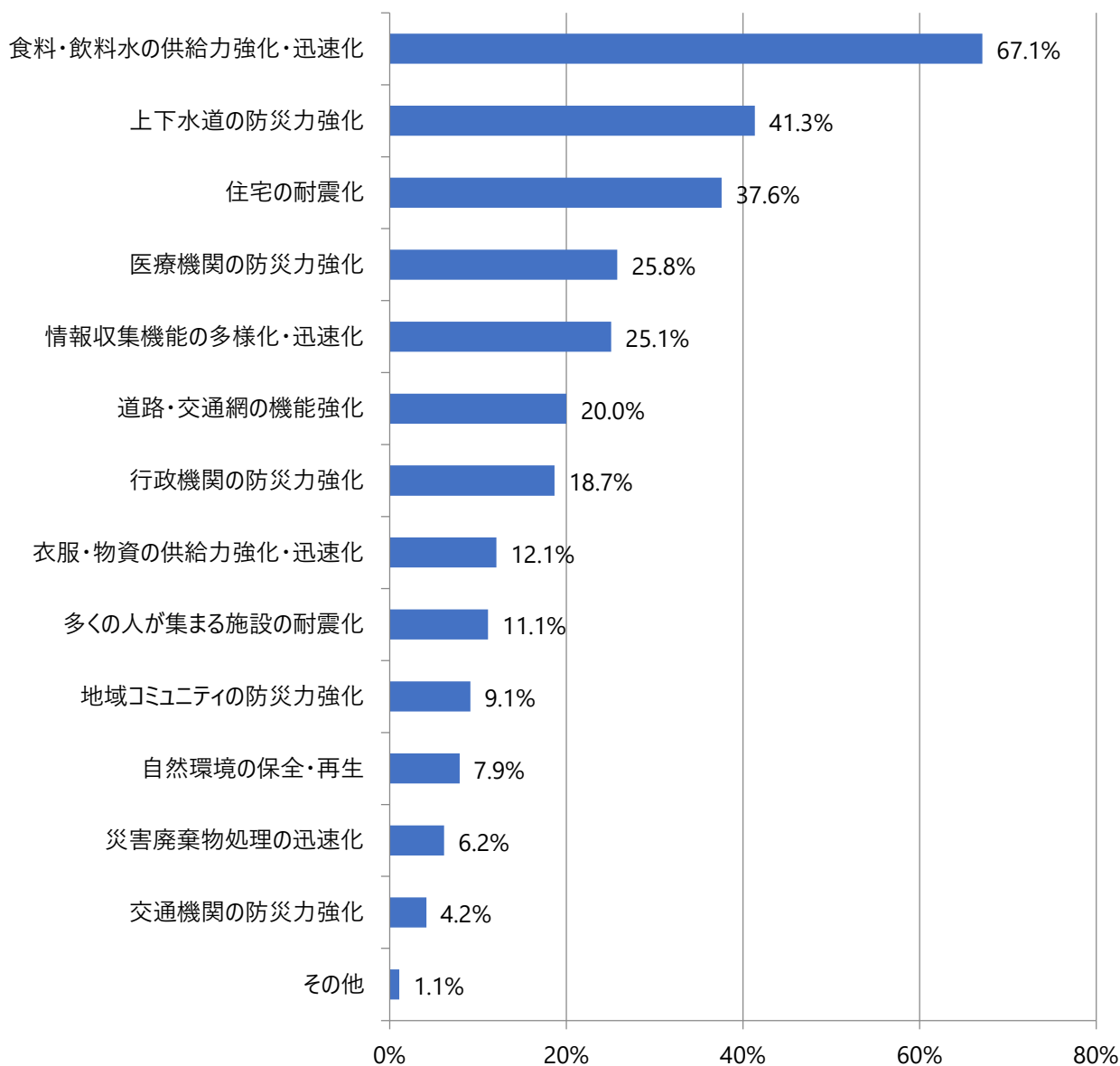
NO	項目	建物・工作物の倒壊・損壊	火災の発生	地割れ・陥没	液化化現象	ガスなどの危険物爆発	家具類の転倒	電化製品が使えなくなること	帰宅や外出が困難になること	家族と連絡が取れなくなること	仕事ができなくなること	食料・飲料水の確保ができなくなること	避難所での生活	治安の悪化	その他
1	大隈	80.6%	69.4%	30.6%	5.6%	50.0%	30.6%	55.6%	44.4%	61.1%	19.4%	69.4%	50.0%	19.4%	5.6%
2	上大隈	100.0%	78.6%	42.9%	21.4%	50.0%	35.7%	64.3%	50.0%	64.3%	28.6%	92.9%	50.0%	28.6%	0.0%
3	江辻	76.2%	57.1%	9.5%	4.8%	33.3%	23.8%	61.9%	14.3%	47.6%	19.0%	85.7%	42.9%	23.8%	0.0%
4	戸原	89.1%	73.4%	35.9%	15.6%	37.5%	34.4%	56.3%	26.6%	62.5%	18.8%	78.1%	53.1%	25.0%	3.1%
5	長者原上	67.6%	55.9%	41.2%	14.7%	38.2%	29.4%	61.8%	38.2%	73.5%	20.6%	76.5%	44.1%	35.3%	5.9%
6	長者原中	67.6%	67.6%	23.5%	8.8%	38.2%	35.3%	52.9%	26.5%	50.0%	26.5%	82.4%	47.1%	17.6%	2.9%
7	長者原下	90.3%	67.7%	19.4%	16.1%	51.6%	32.3%	64.5%	45.2%	87.1%	22.6%	90.3%	64.5%	29.0%	3.2%
8	内橋一	94.1%	58.8%	23.5%	5.9%	47.1%	41.2%	88.2%	35.3%	64.7%	11.8%	88.2%	58.8%	11.8%	0.0%
9	内橋二	84.2%	63.2%	31.6%	26.3%	31.6%	15.8%	63.2%	42.1%	68.4%	36.8%	89.5%	63.2%	5.3%	5.3%
10	内橋三	81.8%	90.9%	54.5%	0.0%	54.5%	36.4%	63.6%	36.4%	72.7%	9.1%	72.7%	72.7%	27.3%	9.1%
11	朝日	100.0%	66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	50.0%	0.0%	66.7%	50.0%	0.0%	0.0%
12	長戸	83.3%	79.2%	33.3%	16.7%	37.5%	25.0%	41.7%	20.8%	41.7%	20.8%	75.0%	75.0%	25.0%	4.2%
13	多の津														
14	サンライフ	75.0%	75.0%	37.5%	12.5%	50.0%	37.5%	37.5%	25.0%	50.0%	12.5%	87.5%	50.0%	25.0%	0.0%
15	酒殿	96.2%	57.7%	38.5%	15.4%	30.8%	23.1%	53.8%	34.6%	65.4%	23.1%	69.2%	65.4%	11.5%	0.0%
16	甲仲原	80.4%	65.2%	47.8%	19.6%	32.6%	30.4%	54.3%	26.1%	47.8%	21.7%	84.8%	56.5%	23.9%	0.0%
17	駕奥丁	86.7%	60.0%	26.7%	0.0%	60.0%	33.3%	80.0%	20.0%	60.0%	13.3%	80.0%	66.7%	33.3%	0.0%
18	花ヶ浦	81.0%	61.9%	33.3%	11.1%	42.9%	31.7%	65.1%	39.7%	55.6%	17.5%	84.1%	49.2%	25.4%	0.0%
19	乙仲原東	80.5%	68.3%	41.5%	14.6%	48.8%	36.6%	48.8%	36.6%	48.8%	12.2%	73.2%	53.7%	22.0%	2.4%
20	乙仲原西	83.3%	58.3%	35.4%	16.7%	43.8%	33.3%	58.3%	45.8%	58.3%	22.9%	91.7%	47.9%	22.9%	0.0%
21	若宮	90.6%	68.8%	34.4%	6.3%	46.9%	40.6%	56.3%	40.6%	68.8%	12.5%	81.3%	53.1%	25.0%	6.3%
22	原町	80.0%	61.3%	34.7%	13.3%	36.0%	28.0%	48.0%	33.3%	53.3%	17.3%	81.3%	58.7%	25.3%	1.3%
23	阿恵	74.1%	33.3%	18.5%	0.0%	25.9%	14.8%	51.9%	29.6%	48.1%	11.1%	81.5%	51.9%	14.8%	0.0%
24	柚須	81.0%	70.7%	41.4%	13.8%	39.7%	22.4%	51.7%	39.7%	60.3%	24.1%	81.0%	63.8%	22.4%	1.7%
25	わからない	94.4%	66.7%	33.3%	5.6%	44.4%	27.8%	33.3%	33.3%	66.7%	38.9%	83.3%	44.4%	22.2%	5.6%
	全体	82.7%	64.8%	34.1%	12.6%	40.8%	29.9%	56.0%	34.8%	58.9%	19.8%	81.3%	55.1%	22.9%	2.2%

(4) 効果的と思う対策（複数回答3つまで）（問7）

効果的と思う対策は、「食料・飲料水の供給力強化・迅速化」が7割弱と最も多く、次いで「上下水道の防災力強化」が4割強となっています。

行政区別では、全体と同様にどの地域においても、「食料・飲料水の供給力強化・迅速化」が最も多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（745人）の割合

<行政区別集計結果>

NO	項目	住宅の耐震化	多くの人が集まる施設の耐震化	道路・交通網の機能強化	情報収集機能の多様化・迅速化	衣服・物資の供給力強化・迅速化	食料・飲料水の供給力強化・迅速化	行政機関の防災力強化	医療機関の防災力強化	上下水道の防災力強化	交通機関の防災力強化	地域コミュニティの防災力強化	災害廃棄物処理の迅速化	自然環境の保全・再生	その他
1	大隈	40.0%	5.7%	28.6%	25.7%	20.0%	62.9%	14.3%	17.1%	34.3%	2.9%	8.6%	14.3%	14.3%	0.0%
2	上大隈	46.2%	15.4%	30.8%	23.1%	7.7%	53.8%	15.4%	23.1%	38.5%	7.7%	15.4%	0.0%	7.7%	0.0%
3	江辻	19.0%	19.0%	28.6%	14.3%	14.3%	66.7%	28.6%	14.3%	42.9%	4.8%	9.5%	14.3%	4.8%	0.0%
4	戸原	39.7%	9.5%	20.6%	27.0%	12.7%	58.7%	17.5%	34.9%	54.0%	3.2%	7.9%	6.3%	3.2%	0.0%
5	長者原上	27.6%	13.8%	10.3%	27.6%	3.4%	75.9%	24.1%	27.6%	34.5%	6.9%	10.3%	0.0%	17.2%	0.0%
6	長者原中	34.4%	9.4%	9.4%	25.0%	6.3%	71.9%	28.1%	21.9%	50.0%	3.1%	6.3%	9.4%	9.4%	3.1%
7	長者原下	31.0%	10.3%	20.7%	31.0%	24.1%	79.3%	6.9%	27.6%	37.9%	0.0%	13.8%	6.9%	3.4%	0.0%
8	内橋一	37.5%	6.3%	25.0%	12.5%	12.5%	75.0%	12.5%	37.5%	43.8%	12.5%	12.5%	0.0%	6.3%	0.0%
9	内橋二	56.3%	6.3%	6.3%	18.8%	6.3%	75.0%	18.8%	37.5%	43.8%	0.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%
10	内橋三	36.4%	9.1%	9.1%	27.3%	18.2%	90.9%	18.2%	9.1%	18.2%	0.0%	9.1%	9.1%	9.1%	0.0%
11	朝日	50.0%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
12	長戸	54.2%	12.5%	4.2%	25.0%	16.7%	66.7%	20.8%	20.8%	37.5%	4.2%	4.2%	16.7%	8.3%	0.0%
13	多の津														
14	サンライフ	50.0%	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%	100.0%	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15	酒殿	40.0%	4.0%	12.0%	28.0%	8.0%	44.0%	28.0%	28.0%	32.0%	8.0%	20.0%	4.0%	12.0%	0.0%
16	甲仲原	36.4%	15.9%	20.5%	22.7%	13.6%	70.5%	20.5%	22.7%	36.4%	2.3%	9.1%	2.3%	4.5%	0.0%
17	駕奥丁	43.8%	25.0%	18.8%	18.8%	6.3%	56.3%	18.8%	31.3%	50.0%	0.0%	6.3%	0.0%	12.5%	0.0%
18	花ヶ浦	35.6%	6.8%	32.2%	22.0%	8.5%	59.3%	15.3%	30.5%	55.9%	3.4%	3.4%	5.1%	10.2%	5.1%
19	乙仲原東	37.8%	13.5%	21.6%	24.3%	5.4%	67.6%	29.7%	24.3%	29.7%	5.4%	13.5%	2.7%	16.2%	0.0%
20	乙仲原西	31.9%	14.9%	19.1%	27.7%	12.8%	70.2%	14.9%	29.8%	42.6%	8.5%	6.4%	6.4%	4.3%	2.1%
21	若宮	29.0%	9.7%	25.8%	19.4%	12.9%	74.2%	12.9%	32.3%	38.7%	3.2%	12.9%	12.9%	9.7%	0.0%
22	原町	39.2%	12.2%	17.6%	29.7%	13.5%	70.3%	14.9%	21.6%	36.5%	6.8%	9.5%	6.8%	10.8%	1.4%
23	阿恵	34.6%	11.5%	34.6%	26.9%	11.5%	65.4%	7.7%	19.2%	34.6%	0.0%	3.8%	15.4%	11.5%	0.0%
24	柚須	41.8%	9.1%	20.0%	21.8%	12.7%	60.0%	25.5%	23.6%	43.6%	1.8%	10.9%	3.6%	3.6%	1.8%
25	わからない	35.3%	11.8%	11.8%	41.2%	17.6%	76.5%	29.4%	17.6%	35.3%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	全体	37.4%	11.1%	19.9%	24.9%	12.3%	67.1%	18.7%	25.5%	41.4%	4.2%	9.2%	6.3%	8.1%	1.1%

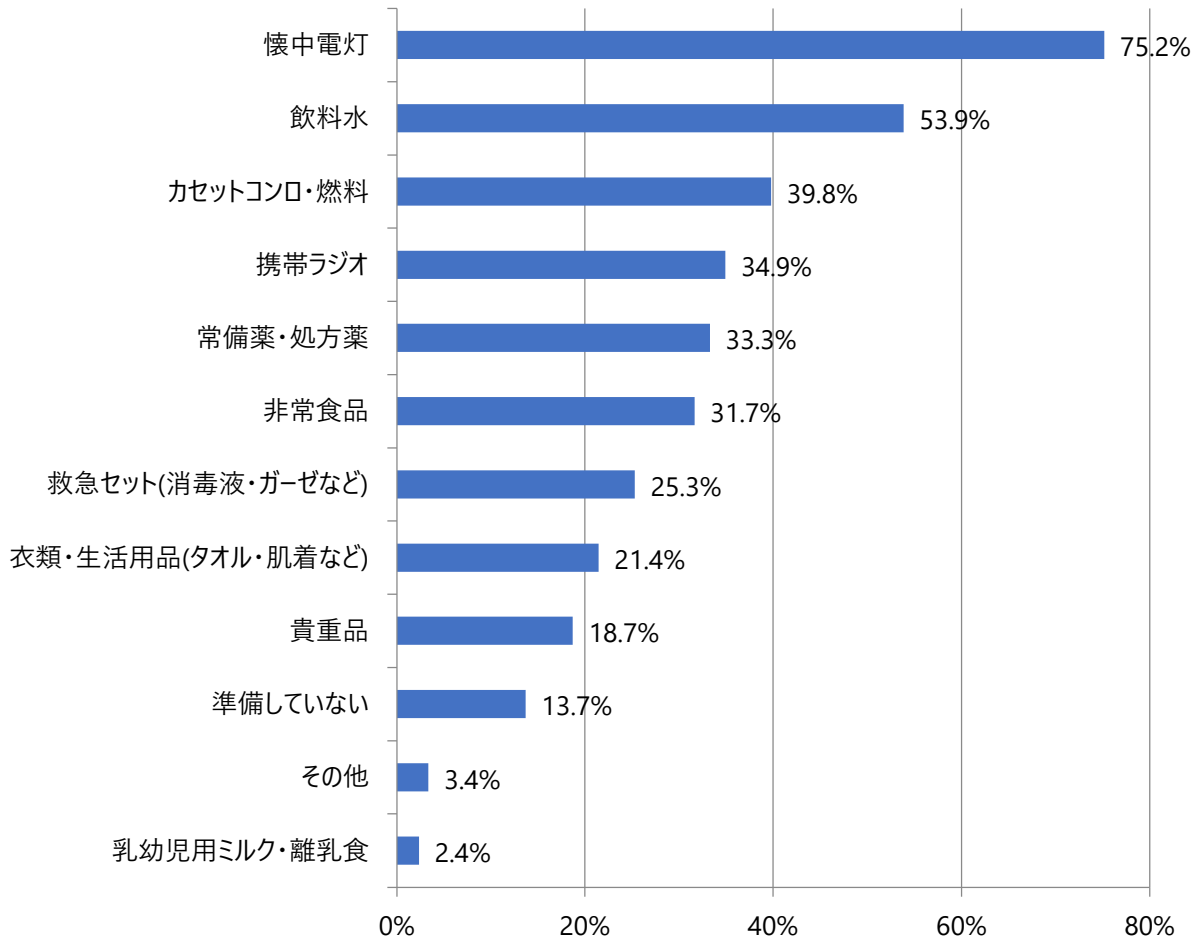
3. 災害への取り組みについて

(1) 災害に備えて準備しているもの（複数回答）（問9）

災害に備えて準備しているものは、「懐中電灯」が7割半ばと最も多く、次いで「飲料水」が5割強となっています。

行政区別では、「内橋二」で「飲料水」が最も多く、その他の行政区では全体と同様に、「懐中電灯」が最も多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（802人）の割合

「その他」の回答内容	回答数
簡易・携帯トイレ	7
ポータブル電源・モバイルバッテリー	6
防災リュック・車中泊セット	4
現金(小銭)	3
等	

<行政区別集計結果>

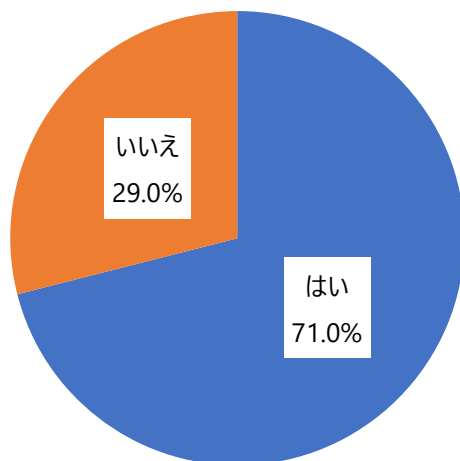
NO	項目	飲料水	非常食品	乳幼児用ミルク・離乳食	携帯ラジオ	懐中電灯	救急セット（消毒液・ガーゼなど）	常備薬・処方薬	衣類・生活用品（タオル・肌着など）	カセットコンロ・燃料	貴重品	準備していない	その他
1	大隈	58.3%	33.3%	2.8%	36.1%	72.2%	30.6%	38.9%	47.2%	41.7%	36.1%	16.7%	5.6%
2	上大隈	35.7%	14.3%	0.0%	21.4%	71.4%	21.4%	57.1%	14.3%	35.7%	35.7%	7.1%	0.0%
3	江辻	27.3%	27.3%	4.5%	45.5%	63.6%	31.8%	36.4%	18.2%	27.3%	9.1%	31.8%	0.0%
4	戸原	56.1%	27.3%	4.5%	31.8%	80.3%	24.2%	30.3%	25.8%	39.4%	19.7%	7.6%	9.1%
5	長者原上	67.6%	35.3%	0.0%	32.4%	73.5%	23.5%	35.3%	20.6%	55.9%	5.9%	11.8%	5.9%
6	長者原中	48.6%	31.4%	0.0%	45.7%	71.4%	31.4%	42.9%	25.7%	37.1%	20.0%	8.6%	5.7%
7	長者原下	43.8%	21.9%	3.1%	34.4%	75.0%	25.0%	40.6%	25.0%	40.6%	12.5%	15.6%	3.1%
8	内橋一	55.6%	33.3%	5.6%	55.6%	72.2%	27.8%	33.3%	11.1%	44.4%	33.3%	5.6%	5.6%
9	内橋二	60.0%	30.0%	0.0%	30.0%	55.0%	10.0%	30.0%	20.0%	25.0%	25.0%	20.0%	0.0%
10	内橋三	54.5%	18.2%	18.2%	54.5%	72.7%	9.1%	27.3%	18.2%	36.4%	36.4%	0.0%	0.0%
11	朝日	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%	16.7%	0.0%	16.7%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%
12	長戸	56.0%	36.0%	0.0%	28.0%	72.0%	12.0%	32.0%	8.0%	32.0%	20.0%	16.0%	8.0%
13	多の津												
14	サンライフ	42.9%	42.9%	0.0%	42.9%	71.4%	42.9%	42.9%	28.6%	57.1%	28.6%	28.6%	14.3%
15	酒殿	57.1%	42.9%	0.0%	32.1%	75.0%	32.1%	39.3%	28.6%	32.1%	25.0%	7.1%	0.0%
16	甲仲原	53.2%	27.7%	0.0%	44.7%	80.9%	23.4%	40.4%	17.0%	40.4%	23.4%	17.0%	2.1%
17	駕輿丁	60.0%	26.7%	0.0%	33.3%	73.3%	13.3%	46.7%	13.3%	60.0%	13.3%	13.3%	0.0%
18	花ヶ浦	64.6%	43.1%	0.0%	46.2%	81.5%	32.3%	29.2%	24.6%	55.4%	18.5%	13.8%	3.1%
19	乙仲原東	59.5%	38.1%	4.8%	45.2%	76.2%	45.2%	35.7%	21.4%	35.7%	9.5%	14.3%	0.0%
20	乙仲原西	54.0%	42.0%	0.0%	34.0%	82.0%	18.0%	34.0%	18.0%	38.0%	12.0%	10.0%	0.0%
21	若宮	55.9%	32.4%	2.9%	29.4%	91.2%	38.2%	32.4%	20.6%	38.2%	26.5%	2.9%	8.8%
22	原町	55.8%	26.0%	3.9%	31.2%	76.6%	20.8%	31.2%	14.3%	31.2%	9.1%	15.6%	2.6%
23	阿恵	42.9%	21.4%	7.1%	35.7%	67.9%	14.3%	17.9%	14.3%	42.9%	21.4%	17.9%	0.0%
24	柚須	47.4%	29.8%	1.8%	26.3%	73.7%	19.3%	22.8%	22.8%	36.8%	19.3%	15.8%	1.8%
25	わからない	38.9%	22.2%	0.0%	5.6%	50.0%	27.8%	27.8%	27.8%	33.3%	11.1%	33.3%	5.6%
	全体	53.6%	31.5%	2.3%	35.3%	75.2%	25.3%	33.3%	21.5%	39.5%	18.6%	13.9%	3.4%

(2) 避難所及び避難場所の把握（問10）

避難所及び避難場所を把握しているかは、「はい」が7割を占めています。

行政区別では全体と同様に、「はい」が最も多く、どの地域においても半数以上で避難所及び避難場所の把握をしていると回答しています。

<全体集計結果>



<行政区別集計結果>

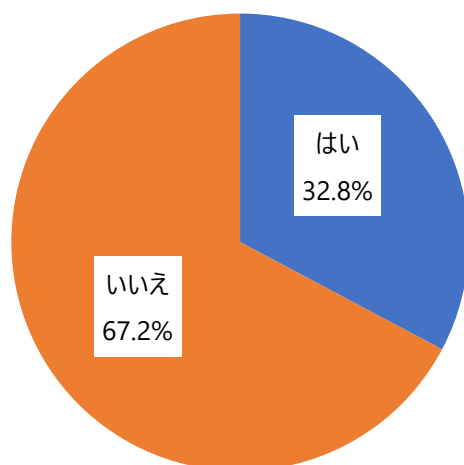
NO	行政区	はい	いいえ
1	大隈	59.5%	40.5%
2	上大隈	85.7%	14.3%
3	江辻	87.0%	13.0%
4	戸原	74.2%	25.8%
5	長者原上	71.4%	28.6%
6	長者原中	86.1%	13.9%
7	長者原下	71.0%	29.0%
8	内橋一	77.8%	22.2%
9	内橋二	70.0%	30.0%
10	内橋三	72.7%	27.3%
11	朝日	83.3%	16.7%
12	長戸	60.0%	40.0%
13	多の津		
14	サンライフ	57.1%	42.9%
15	酒殿	64.3%	35.7%
16	甲仲原	78.7%	21.3%
17	駕輿丁	93.3%	6.7%
18	花ヶ浦	78.5%	21.5%
19	乙仲原東	75.6%	24.4%
20	乙仲原西	54.0%	46.0%
21	若宮	79.4%	20.6%
22	原町	69.2%	30.8%
23	阿恵	71.4%	28.6%
24	柚須	60.7%	39.3%
25	わからない	55.6%	44.4%

(3) 災害発生時の安否確認や連絡方法（問11）

災害発生時の安否確認や連絡方法を決めているかは、「いいえ」（決めていない）が7割弱と最も多くなっています。

行政区別では、全体と同様に「いいえ」（決めていない）が最も多く、どの地域においても半数以上で災害発生時の安否確認や連絡方法を決めていないと回答しています。

<全体集計結果>



<行政区別集計結果>

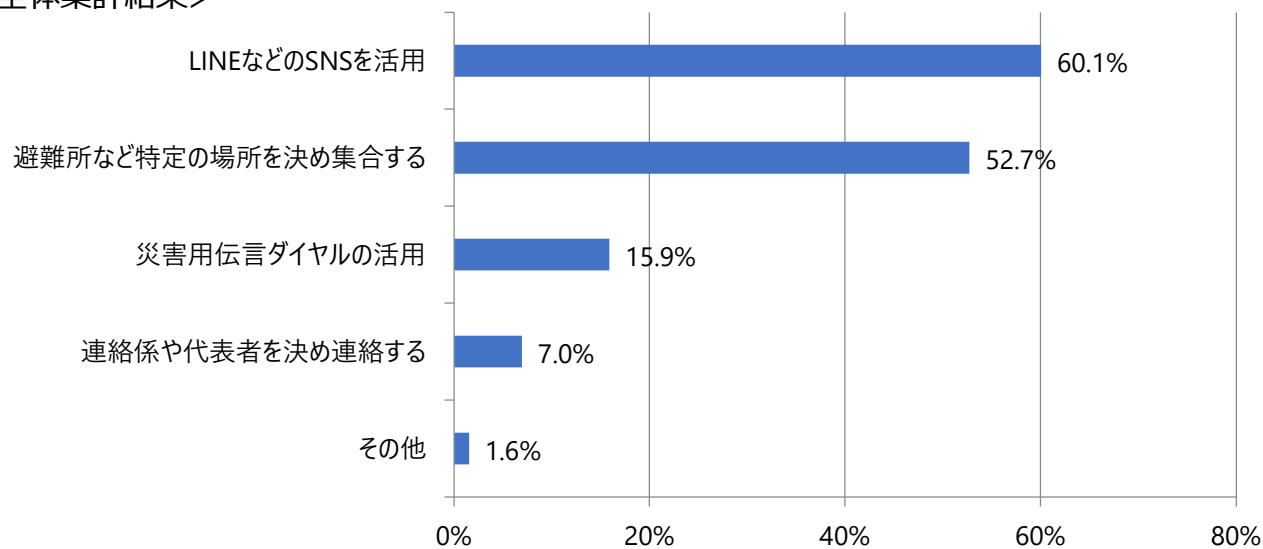
NO	行政区	はい	いいえ
1	大隈	35.1%	64.9%
2	上大隈	21.4%	78.6%
3	江辻	47.8%	52.2%
4	戸原	33.3%	66.7%
5	長者原上	45.7%	54.3%
6	長者原中	42.9%	57.1%
7	長者原下	21.9%	78.1%
8	内橋一	38.9%	61.1%
9	内橋二	35.0%	65.0%
10	内橋三	45.5%	54.5%
11	朝日	50.0%	50.0%
12	長戸	28.0%	72.0%
13	多の津		
14	サンライフ	14.3%	85.7%
15	酒殿	28.6%	71.4%
16	甲仲原	36.2%	63.8%
17	駕輿丁	40.0%	60.0%
18	花ヶ浦	30.8%	69.2%
19	乙仲原東	35.7%	64.3%
20	乙仲原西	25.5%	74.5%
21	若宮	35.3%	64.7%
22	原町	27.3%	72.7%
23	阿恵	21.4%	78.6%
24	柚須	31.6%	68.4%
25	わからない	22.2%	77.8%

(4) 災害発生時の安否確認や連絡の方法（複数回答）（問 1 1 - 1）

災害発生時の安否確認や連絡の方法は、「LINE などの SNS を活用」が約 6 割と最も多く、次いで「避難所など特定の場所を決め集合する」が 5 割強となっています。

行政区別では、「内橋三」「朝日」「サンライフ」「乙仲原西」で「災害用伝言ダイヤルの活用」が最も多く、その他の行政区では全体と同様に、「LINE などの SNS を活用」「避難所など特定の場所を決め集合する」が多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（258 人）の割合

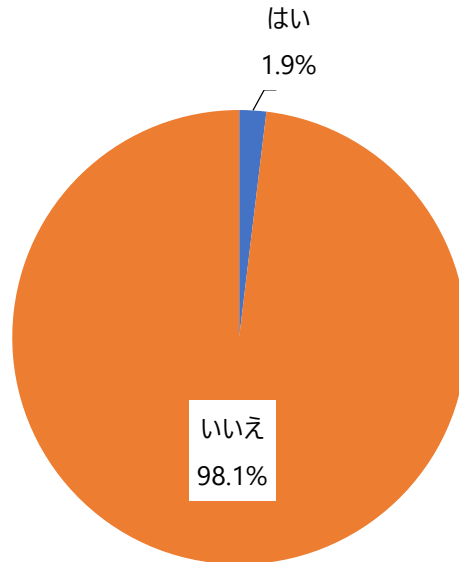
<行政区別集計結果>

NO	項目	災害用伝言 ダイヤルの活用	LINEなどの SNSを活用	連絡係や 代表者を決め 連絡する	避難所など 特定の場所を 決め集合する	その他
1	大隈	15.4%	61.5%	15.4%	7.7%	0.0%
2	上大隈	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%
3	江辻	0.0%	36.4%	27.3%	36.4%	0.0%
4	戸原	13.6%	45.5%	0.0%	40.9%	0.0%
5	長者原上	12.5%	50.0%	0.0%	37.5%	0.0%
6	長者原中	14.3%	50.0%	0.0%	35.7%	0.0%
7	長者原下	42.9%	14.3%	0.0%	42.9%	0.0%
8	内橋一	14.3%	28.6%	0.0%	57.1%	0.0%
9	内橋二	0.0%	71.4%	0.0%	28.6%	0.0%
10	内橋三	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%
11	朝日	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
12	長戸	14.3%	71.4%	0.0%	14.3%	0.0%
13	多の津					
14	サンライフ	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15	酒殿	0.0%	85.7%	0.0%	0.0%	14.3%
16	甲仲原	31.3%	62.5%	6.3%	0.0%	0.0%
17	駕輿丁	33.3%	16.7%	0.0%	50.0%	0.0%
18	花ヶ浦	15.0%	45.0%	0.0%	40.0%	0.0%
19	乙仲原東	0.0%	73.3%	0.0%	26.7%	0.0%
20	乙仲原西	38.5%	30.8%	0.0%	30.8%	0.0%
21	若宮	27.3%	36.4%	0.0%	36.4%	0.0%
22	原町	14.3%	42.9%	4.8%	38.1%	0.0%
23	阿恵	0.0%	60.0%	0.0%	40.0%	0.0%
24	柚須	0.0%	82.4%	0.0%	17.6%	0.0%
25	わからない	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
	全体	15.9%	51.4%	3.2%	29.1%	0.4%

(5) マイタイムラインの作成（問12）

マイタイムラインの作成は、「いいえ」（作成していない）が9割以上を占めています。
行政区別においても、全体と同様の結果となっています。

<全体集計結果>



<行政区別集計結果>

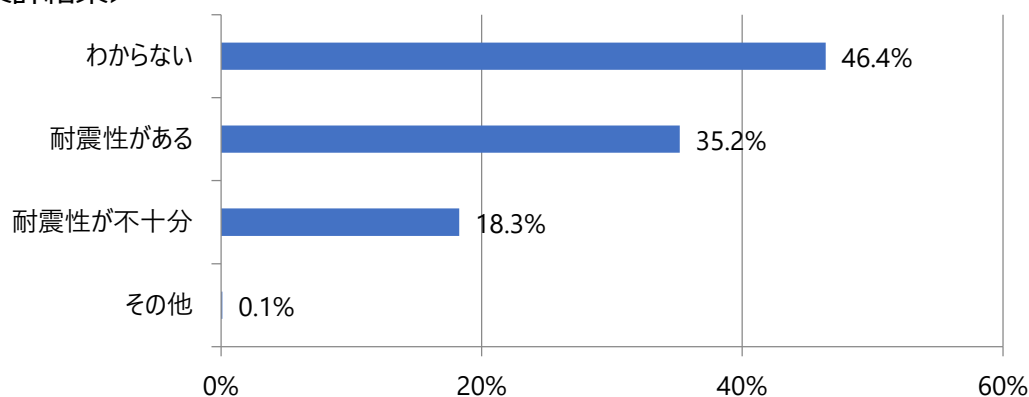
NO	行政区	はい	いいえ
1	大隈	0.0%	100.0%
2	上大隈	0.0%	100.0%
3	江辻	4.5%	95.5%
4	戸原	1.5%	98.5%
5	長者原上	0.0%	100.0%
6	長者原中	5.7%	94.3%
7	長者原下	3.2%	96.8%
8	内橋一	0.0%	100.0%
9	内橋二	0.0%	100.0%
10	内橋三	0.0%	100.0%
11	朝日	0.0%	100.0%
12	長戸	4.0%	96.0%
13	多の津		
14	サンライフ	0.0%	100.0%
15	酒殿	0.0%	100.0%
16	甲仲原	2.2%	97.8%
17	駕輿丁	0.0%	100.0%
18	花ヶ浦	1.5%	98.5%
19	乙仲原東	4.9%	95.1%
20	乙仲原西	2.1%	97.9%
21	若宮	6.3%	93.8%
22	原町	0.0%	100.0%
23	阿恵	0.0%	100.0%
24	柚須	1.8%	98.2%
25	わからない	5.6%	94.4%

(6) 住宅の耐震性（問13）

住宅の耐震性は、「わからない」が4割半ばで最も多く、次いで「耐震性がある」が3割半ばとなっています。

行政区別においては、「江辻」「内橋一」で「耐震性が不十分」との回答が多くなっています。その他の行政区では、全体と同様に「耐震性がある」「わからない」が多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（804人）の割合

<行政区別集計結果>

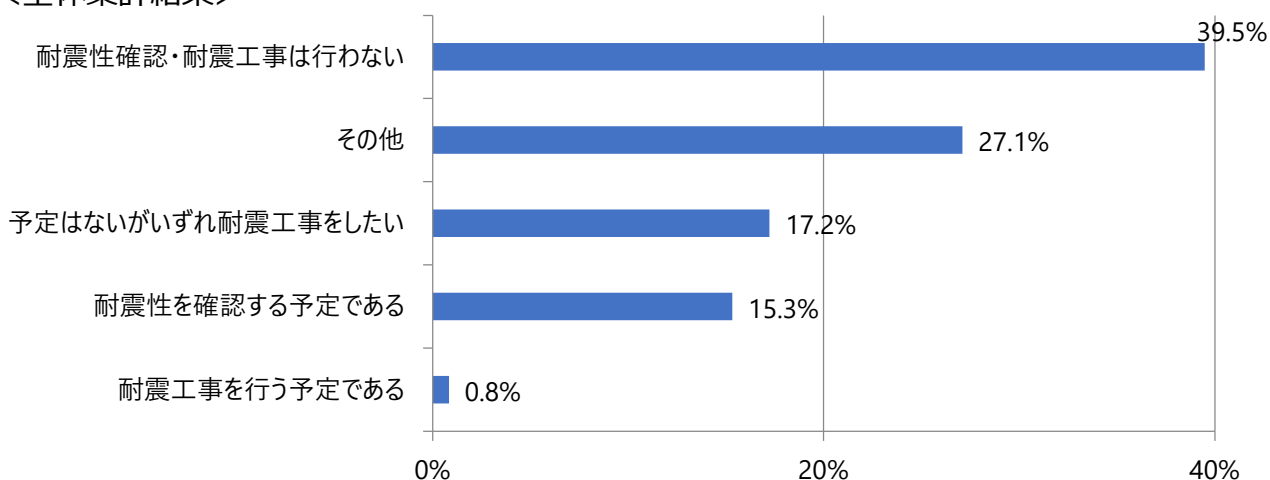
NO	行政区	耐震性がある	耐震性が不十分	わからない	その他
1	大隈	27.0%	16.2%	56.8%	0.0%
2	上大隈	42.9%	14.3%	42.9%	0.0%
3	江辻	21.7%	43.5%	34.8%	0.0%
4	戸原	45.5%	7.6%	47.0%	0.0%
5	長者原上	37.1%	17.1%	45.7%	0.0%
6	長者原中	34.3%	17.1%	48.6%	0.0%
7	長者原下	50.0%	12.5%	37.5%	0.0%
8	内橋一	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
9	内橋二	15.0%	10.0%	75.0%	0.0%
10	内橋三	45.5%	9.1%	45.5%	0.0%
11	朝日	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%
12	長戸	48.0%	24.0%	28.0%	0.0%
13	多の津				
14	サンライフ	0.0%	42.9%	57.1%	0.0%
15	酒殿	53.6%	25.0%	21.4%	0.0%
16	甲仲原	27.7%	21.3%	51.1%	0.0%
17	駕輿丁	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%
18	花ヶ浦	36.9%	16.9%	44.6%	1.5%
19	乙仲原東	40.5%	21.4%	38.1%	0.0%
20	乙仲原西	44.0%	20.0%	36.0%	0.0%
21	若宮	24.2%	30.3%	45.5%	0.0%
22	原町	32.1%	17.9%	50.0%	0.0%
23	阿恵	18.5%	22.2%	59.3%	0.0%
24	柚須	42.1%	14.0%	43.9%	0.0%
25	わからない	11.1%	5.6%	83.3%	0.0%

(7) 住宅の耐震性の確認や対策（問13-1）

住宅の耐震性確認や対策は、「耐震性確認・耐震工事は行わない」が4割弱で最も多く、次いで「その他」が3割弱となっています。その他の内訳は、賃貸住宅や共同住宅の回答が多くなっています。

行政区別においては、「内橋三」「朝日」「サンライフ」で「耐震性を確認する予定である」との回答が最も多くなっています。その他の行政区では、全体と同様に「耐震性確認・耐震工事は行わない」が多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（476人）の割合

「その他」の回答内容	回答数
賃貸住宅・共同住宅のため	67
考えていない	8
費用について	4
等	

<行政区別集計結果>

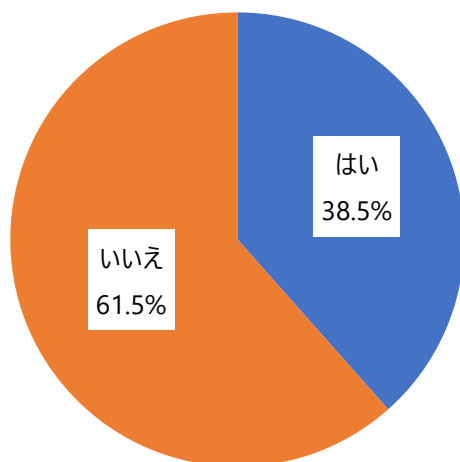
NO	行政区	耐震性を確認する 予定である	耐震工事を行う 予定である	予定はないがいずれ 耐震工事をしたい	耐震性確認・耐震工 事は行わない	その他
1	大隈	16.0%	0.0%	16.0%	40.0%	28.0%
2	上大隈	0.0%	0.0%	16.7%	66.7%	16.7%
3	江辻	11.8%	0.0%	17.6%	58.8%	11.8%
4	戸原	19.4%	0.0%	29.0%	22.6%	29.0%
5	長者原上	0.0%	0.0%	23.8%	57.1%	19.0%
6	長者原中	10.0%	0.0%	20.0%	35.0%	35.0%
7	長者原下	21.4%	0.0%	7.1%	28.6%	42.9%
8	内橋一	27.3%	0.0%	18.2%	54.5%	0.0%
9	内橋二	14.3%	7.1%	14.3%	50.0%	14.3%
10	内橋三	33.3%	0.0%	16.7%	33.3%	16.7%
11	朝日	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%
12	長戸	7.7%	7.7%	15.4%	30.8%	38.5%
13	多の津					
14	サンライフ	33.3%	0.0%	16.7%	33.3%	16.7%
15	酒殿	8.3%	0.0%	33.3%	50.0%	8.3%
16	甲仲原	20.0%	3.3%	13.3%	26.7%	36.7%
17	駕輿丁	12.5%	0.0%	12.5%	50.0%	25.0%
18	花ヶ浦	10.5%	0.0%	15.8%	34.2%	39.5%
19	乙仲原東	16.0%	0.0%	32.0%	40.0%	12.0%
20	乙仲原西	8.0%	0.0%	24.0%	48.0%	20.0%
21	若宮	17.4%	0.0%	17.4%	39.1%	26.1%
22	原町	14.3%	0.0%	12.2%	34.7%	38.8%
23	阿恵	22.7%	0.0%	22.7%	36.4%	18.2%
24	柚須	18.8%	3.1%	6.3%	46.9%	25.0%
25	わからない	20.0%	0.0%	6.7%	46.7%	26.7%

(8) 防災士や消防団の活動（問14）

防災士や消防団の活動について「はい」（知っている）と回答した人は4割弱で、「いいえ」（知らない）と回答した人は6割強となっています。

行政区別においては、「江辻」「内橋一」「駕輿丁」「阿恵」では「はい」（知っている）との回答が多くなっています。

<全体集計結果>



<行政区別集計結果>

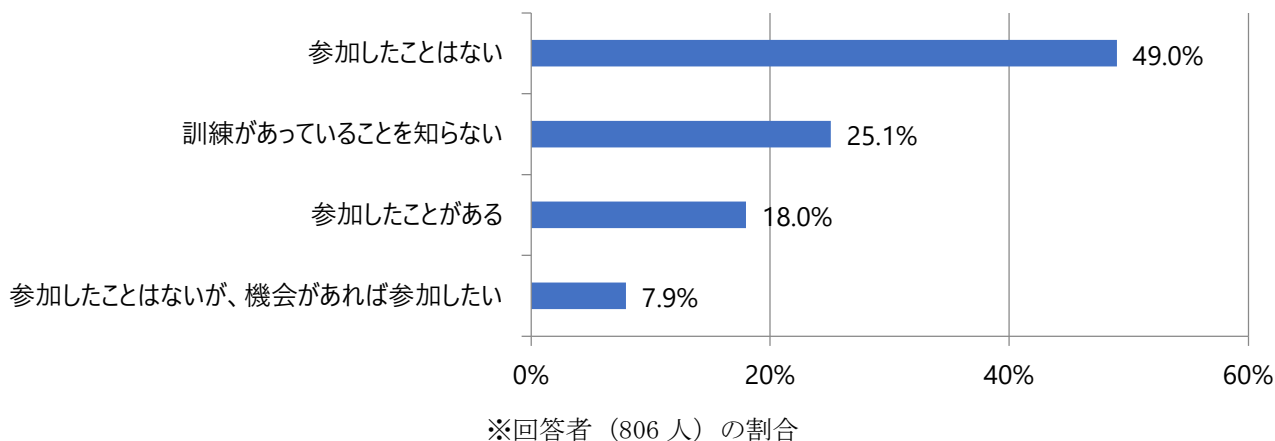
NO	行政区	はい	いいえ
1	大隈	35.1%	64.9%
2	上大隈	35.7%	64.3%
3	江辻	54.5%	45.5%
4	戸原	40.9%	59.1%
5	長者原上	22.9%	77.1%
6	長者原中	41.7%	58.3%
7	長者原下	46.9%	53.1%
8	内橋一	66.7%	33.3%
9	内橋二	30.0%	70.0%
10	内橋三	27.3%	72.7%
11	朝日	16.7%	83.3%
12	長戸	36.0%	64.0%
13	多の津		
14	サンライフ	14.3%	85.7%
15	酒殿	35.7%	64.3%
16	甲仲原	47.8%	52.2%
17	駕輿丁	53.3%	46.7%
18	花ヶ浦	33.8%	66.2%
19	乙仲原東	42.9%	57.1%
20	乙仲原西	30.0%	70.0%
21	若宮	46.9%	53.1%
22	原町	45.5%	54.5%
23	阿恵	51.9%	48.1%
24	袖須	29.8%	70.2%
25	わからない	11.1%	88.9%

(9) 防災訓練の参加有無(問 15)

今までに地域で開催された防災訓練に「参加したことはない」が5割弱で最も多く、次いで「訓練があつていることを知らない」が2割半ばとなっています。

行政区別においては、全体と同様に「参加したことはない」が多くなっています。「江辻」「内橋一」「内橋三」「長戸」「駕輿丁」では「参加したことがある」が多くなっています。

<全体集計結果>



<行政区別集計結果>

NO	行政区	参加したことがある	参加したことはないが、機会があれば参加したい	参加したことはない	訓練があつていることを知らない
1	大隈	8.1%	10.8%	48.6%	32.4%
2	上大隈	7.1%	0.0%	50.0%	42.9%
3	江辻	39.1%	13.0%	21.7%	26.1%
4	戸原	6.1%	13.6%	54.5%	25.8%
5	長者原上	25.7%	5.7%	45.7%	22.9%
6	長者原中	27.8%	0.0%	55.6%	16.7%
7	長者原下	40.6%	3.1%	43.8%	12.5%
8	内橋一	38.9%	5.6%	38.9%	16.7%
9	内橋二	25.0%	5.0%	40.0%	30.0%
10	内橋三	36.4%	9.1%	27.3%	27.3%
11	朝日	16.7%	16.7%	50.0%	16.7%
12	長戸	44.0%	8.0%	36.0%	12.0%
13	多の津				
14	サンライフ	14.3%	0.0%	28.6%	57.1%
15	酒殿	11.1%	3.7%	59.3%	25.9%
16	甲仲原	14.9%	6.4%	55.3%	23.4%
17	駕輿丁	53.3%	6.7%	33.3%	6.7%
18	花ヶ浦	12.5%	7.8%	45.3%	34.4%
19	乙仲原東	9.5%	7.1%	61.9%	21.4%
20	乙仲原西	21.6%	9.8%	39.2%	29.4%
21	若宮	20.6%	11.8%	50.0%	17.6%
22	原町	6.4%	9.0%	64.1%	20.5%
23	阿恵	3.6%	17.9%	57.1%	21.4%
24	袖須	15.8%	7.0%	45.6%	31.6%
25	わからない	22.2%	5.6%	33.3%	38.9%

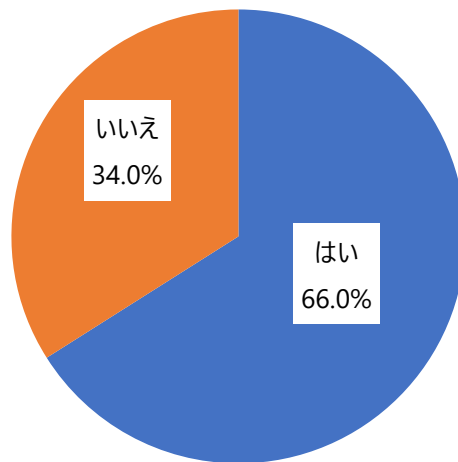
4. 強靱な地域づくりのための情報のあり方

(1) 「避難指示」で必ず避難しなければならないことの既知(問 16)

警戒レベル 4 の避難指示で危険な場所から必ず避難しなければならないことを「はい」(知っている)と回答した人は6割半ばで、「いいえ」(知らない)と回答した人が3割半ばとなっています。

行政区別においては、「朝日」「サンライフ」「乙仲原西」では「いいえ」(知らない)が多くなっています。

<全体集計結果>



<行政区別集計結果>

NO	行政区	はい	いいえ
1	大隈	69.4%	30.6%
2	上大隈	61.5%	38.5%
3	江辻	52.4%	47.6%
4	戸原	59.4%	40.6%
5	長者原上	70.6%	29.4%
6	長者原中	67.6%	32.4%
7	長者原下	66.7%	33.3%
8	内橋一	64.7%	35.3%
9	内橋二	73.7%	26.3%
10	内橋三	80.0%	20.0%
11	朝日	50.0%	50.0%
12	長戸	64.0%	36.0%
13	多の津		
14	サンライフ	42.9%	57.1%
15	酒殿	71.4%	28.6%
16	甲仲原	75.0%	25.0%
17	駕輿丁	61.5%	38.5%
18	花ヶ浦	72.6%	27.4%
19	乙仲原東	73.8%	26.2%
20	乙仲原西	48.0%	52.0%
21	若宮	78.1%	21.9%
22	原町	66.2%	33.8%
23	阿恵	57.7%	42.3%
24	柚須	71.4%	28.6%
25	わからない	58.8%	41.2%

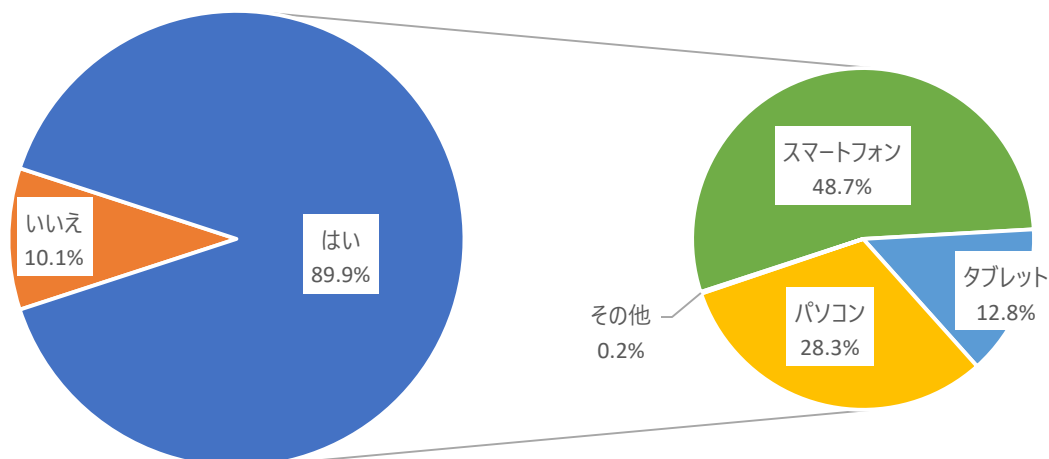
(2) インターネット環境の有無(問 17、問 17-1)

インターネット環境について「はい」(持っている)と回答した人は約9割で、いいえ(「持っていない」)と回答した人は約1割となっています。

また、「はい」と回答した人のうち、インターネット媒体について「スマートフォン」が5割弱と最も多く、次いで「パソコン」が3割弱となっています。

行政区別では全体と同様に、「はい」(持っている)が多くなっています。

<全体集計結果>



<行政区別集計結果>

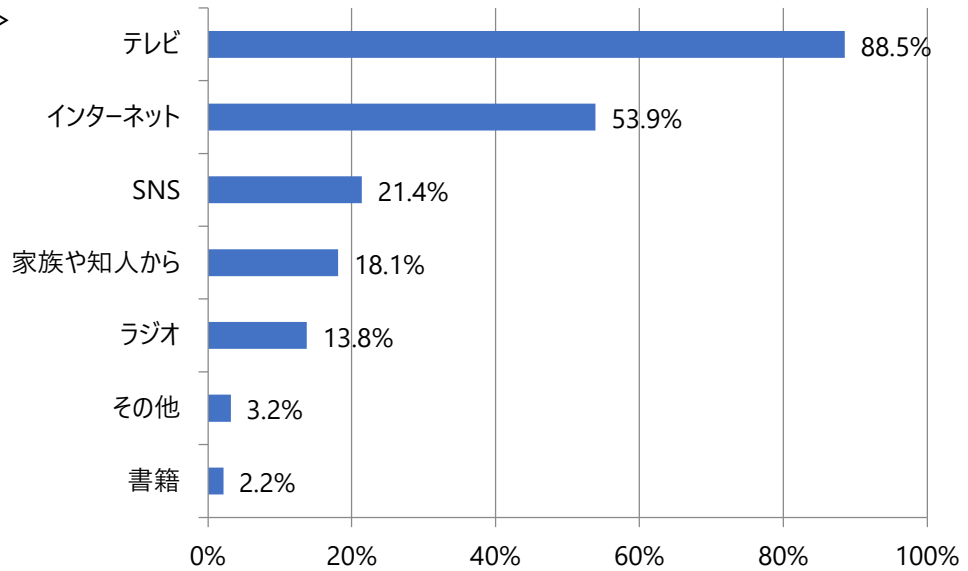
NO	行政区	はい	いいえ
1	大隈	69.4%	30.6%
2	上大隈	76.9%	23.1%
3	江辻	72.7%	27.3%
4	戸原	89.4%	10.6%
5	長者原上	85.3%	14.7%
6	長者原中	82.4%	17.6%
7	長者原下	81.3%	18.8%
8	内橋一	61.1%	38.9%
9	内橋二	95.0%	5.0%
10	内橋三	100.0%	0.0%
11	朝日	83.3%	16.7%
12	長戸	84.0%	16.0%
13	多の津		
14	サンライフ	85.7%	14.3%
15	酒殿	78.6%	21.4%
16	甲仲原	87.0%	13.0%
17	駕輿丁	60.0%	40.0%
18	花ヶ浦	90.3%	9.7%
19	乙仲原東	83.3%	16.7%
20	乙仲原西	88.2%	11.8%
21	若宮	84.4%	15.6%
22	原町	80.0%	20.0%
23	阿恵	77.8%	22.2%
24	袖須	85.7%	14.3%
25	わからない	94.1%	5.9%

(3) 防災知識の入手方法（複数回答）（問 18）

防災に関する知識の入手方法は「テレビ」が 9 割弱で最も多く、次いで「インターネット」が 5 割強となっています。

行政区別では、全体と同様に「テレビ」が多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（785 人）の割合

「その他」の回答内容	回答数
広報誌・ハザードマップ	7
新聞	6
職場	3
等	

<行政区別集計結果>

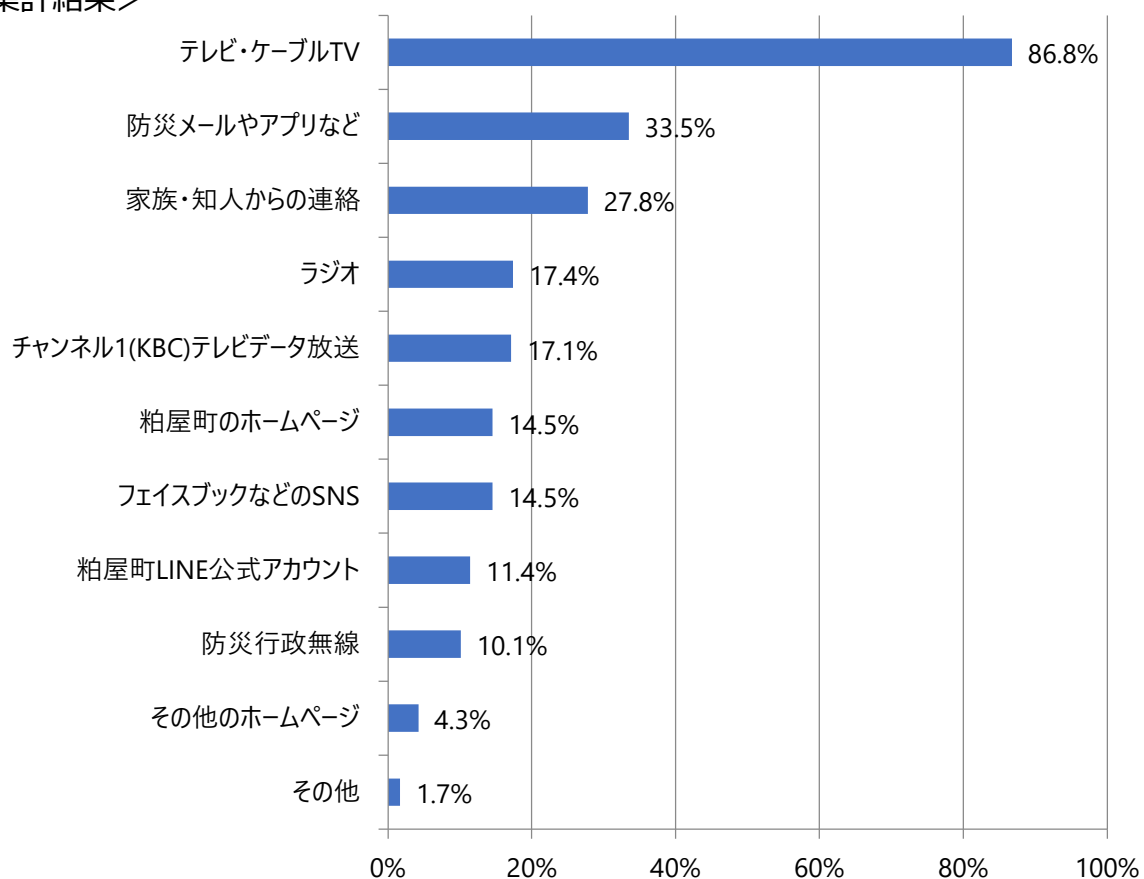
NO	行政区	テレビ	ラジオ	書籍	インターネット	SNS	家族や知人から	その他
1	大隈	42.3%	8.5%	0.0%	23.9%	14.1%	9.9%	1.4%
2	上大隈	50.0%	4.2%	0.0%	29.2%	4.2%	12.5%	0.0%
3	江辻	57.1%	5.7%	0.0%	20.0%	8.6%	5.7%	2.9%
4	戸原	47.3%	6.2%	0.8%	30.2%	7.8%	5.4%	2.3%
5	長者原上	44.4%	2.8%	0.0%	30.6%	9.7%	12.5%	0.0%
6	長者原中	42.6%	11.8%	2.9%	23.5%	8.8%	7.4%	2.9%
7	長者原下	48.3%	5.2%	3.4%	24.1%	6.9%	12.1%	0.0%
8	内橋一	53.1%	15.6%	0.0%	15.6%	6.3%	9.4%	0.0%
9	内橋二	42.1%	2.6%	2.6%	28.9%	7.9%	13.2%	2.6%
10	内橋三	47.4%	10.5%	0.0%	26.3%	10.5%	5.3%	0.0%
11	朝日	38.5%	7.7%	0.0%	38.5%	15.4%	0.0%	0.0%
12	長戸	40.4%	8.8%	3.5%	29.8%	8.8%	7.0%	1.8%
13	多の津							
14	サンライフ	50.0%	0.0%	0.0%	28.6%	7.1%	7.1%	7.1%
15	酒殿	47.2%	5.7%	0.0%	24.5%	15.1%	5.7%	1.9%
16	甲仲原	49.4%	4.8%	1.2%	27.7%	10.8%	6.0%	0.0%
17	駕輿丁	60.9%	13.0%	0.0%	17.4%	0.0%	8.7%	0.0%
18	花ヶ浦	43.2%	9.1%	1.5%	28.0%	9.1%	6.1%	3.0%
19	乙仲原東	47.4%	11.5%	1.3%	29.5%	6.4%	3.8%	0.0%
20	乙仲原西	40.2%	6.9%	1.0%	27.5%	15.7%	7.8%	1.0%
21	若宮	43.5%	6.5%	3.2%	19.4%	12.9%	8.1%	6.5%
22	原町	48.6%	6.4%	0.7%	28.6%	8.6%	5.7%	1.4%
23	阿恵	42.9%	10.2%	0.0%	26.5%	10.2%	10.2%	0.0%
24	柚須	44.6%	6.3%	0.0%	32.1%	12.5%	3.6%	0.9%
25	わからない	35.3%	2.9%	2.9%	41.2%	17.6%	0.0%	0.0%

(4) 災害情報の入手方法（複数回答3つまで）（問 19）

災害情報の入手方法では、「テレビ・ケーブルTV」が8割半ばで最も多く、次いで「防災メールやアプリなど」が3割強となっています。

行政区別では、全体と同様にどの地域においても「テレビ・ケーブルTV」が最も多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（770人）の割合

<その他のホームページの内訳>

「その他」の回答内容	回答数
Yahooニュース・災害情報	15
気象庁	3
河川カメラ(NHK・国土交通省九州地方整備局)	2
等	

<行政区別集計結果>

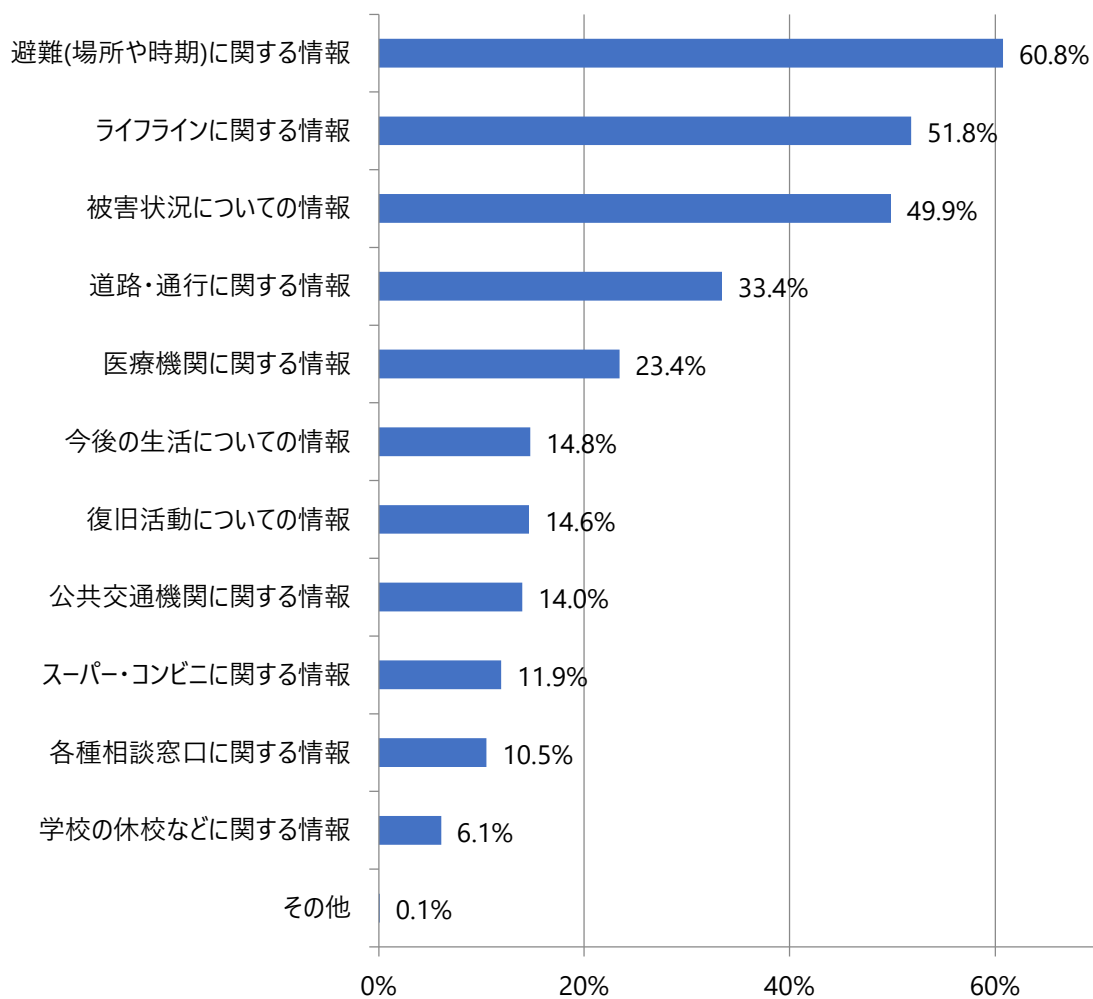
NO	項目	テレビ・ケーブルTV	ラジオ	粕屋町LINE公式アカウント	フェイスブックなどのSNS	チャンネル1（KBC）テレビデータ放送	粕屋町のホームページ	防災行政無線	家族・知人からの連絡	防災メールやアプリなど	その他のホームページ	その他
1	大隈	88.9%	16.7%	13.9%	11.1%	16.7%	11.1%	22.2%	22.2%	36.1%	5.6%	2.8%
2	上大隈	83.3%	8.3%	0.0%	8.3%	25.0%	16.7%	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%
3	江辻	90.9%	9.1%	9.1%	13.6%	9.1%	18.2%	13.6%	18.2%	27.3%	0.0%	0.0%
4	戸原	92.4%	19.7%	13.6%	12.1%	16.7%	21.2%	4.5%	37.9%	33.3%	4.5%	3.0%
5	長者原上	93.9%	6.1%	18.2%	18.2%	18.2%	15.2%	3.0%	36.4%	27.3%	3.0%	0.0%
6	長者原中	81.8%	24.2%	15.2%	12.1%	21.2%	18.2%	6.1%	27.3%	30.3%	0.0%	9.1%
7	長者原下	93.8%	18.8%	15.6%	12.5%	21.9%	9.4%	15.6%	34.4%	37.5%	3.1%	0.0%
8	内橋一	52.9%	47.1%	11.8%	17.6%	29.4%	11.8%	23.5%	29.4%	29.4%	0.0%	5.9%
9	内橋二	90.0%	15.0%	5.0%	20.0%	10.0%	15.0%	5.0%	30.0%	25.0%	15.0%	0.0%
10	内橋三	90.0%	10.0%	30.0%	20.0%	30.0%	0.0%	0.0%	40.0%	30.0%	0.0%	0.0%
11	朝日	83.3%	0.0%	16.7%	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	33.3%	33.3%	0.0%	16.7%
12	長戸	96.0%	20.0%	8.0%	12.0%	16.0%	20.0%	16.0%	16.0%	28.0%	4.0%	4.0%
13	多の津											
14	サンライフ	71.4%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	28.6%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%
15	酒殿	84.6%	11.5%	7.7%	19.2%	11.5%	19.2%	3.8%	30.8%	34.6%	3.8%	3.8%
16	甲仲原	91.1%	15.6%	15.6%	13.3%	11.1%	13.3%	11.1%	20.0%	37.8%	6.7%	0.0%
17	駕輿丁	78.6%	21.4%	0.0%	0.0%	21.4%	7.1%	21.4%	64.3%	28.6%	0.0%	0.0%
18	花ヶ浦	85.0%	21.7%	18.3%	11.7%	21.7%	16.7%	5.0%	16.7%	36.7%	8.3%	0.0%
19	乙仲原東	85.7%	26.2%	16.7%	7.1%	28.6%	11.9%	19.0%	23.8%	28.6%	2.4%	0.0%
20	乙仲原西	89.6%	16.7%	8.3%	18.8%	18.8%	10.4%	4.2%	18.8%	39.6%	4.2%	2.1%
21	若宮	87.5%	18.8%	12.5%	12.5%	15.6%	9.4%	21.9%	46.9%	37.5%	3.1%	3.1%
22	原町	89.0%	12.3%	6.8%	20.5%	16.4%	15.1%	2.7%	26.0%	31.5%	2.7%	0.0%
23	阿恵	76.9%	30.8%	3.8%	19.2%	7.7%	15.4%	19.2%	26.9%	30.8%	0.0%	0.0%
24	柚須	85.2%	14.8%	5.6%	22.2%	11.1%	5.6%	3.7%	24.1%	38.9%	9.3%	1.9%
25	わからない	76.5%	11.8%	11.8%	11.8%	17.6%	29.4%	11.8%	29.4%	23.5%	5.9%	0.0%
	全体	86.9%	17.7%	11.5%	14.8%	17.2%	14.3%	10.1%	27.9%	33.2%	4.4%	1.7%

(5) 災害発生時に欲しいと思う情報（複数回答3つまで）（問 20）

災害発生時に欲しいと思う情報は「避難(場所や時期)に関する情報」が約6割で最も多く、次いで「ライフラインに関する情報」が5割強となっています。

行政区別でも、「避難(場所や時期)に関する情報」「ライフラインに関する情報」が多くなっていますが、「上大隈」では、「道路・通行に関する情報」が多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（772人）の割合

<行政区別集計結果>

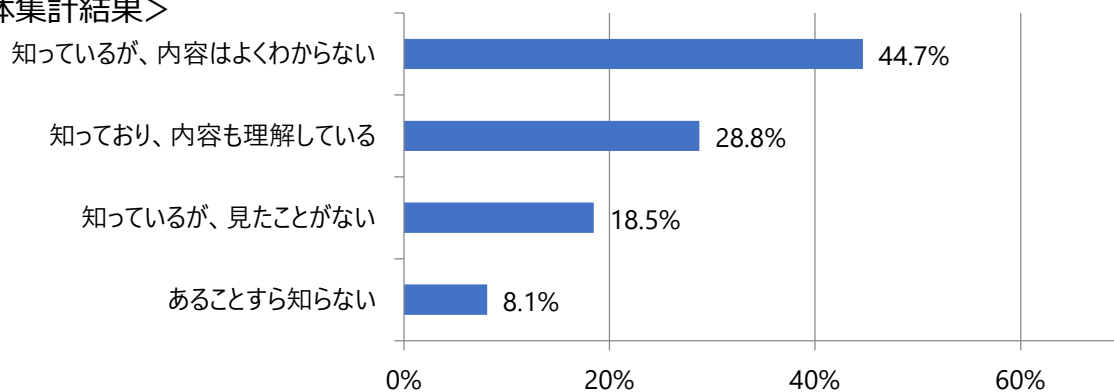
NO	項目	避難（場所や時期）に関する情報	道路・通行に関する情報	公共交通機関に関する情報	ライフラインに関する情報	医療機関に関する情報	スーパー・コンビニに関する情報	学校の休校などに関する情報	今後の生活についての情報	被害状況についての情報	復旧活動についての情報	各種相談窓口に関する情報	その他
1	大隈	58.3%	52.8%	8.3%	36.1%	13.9%	8.3%	2.8%	5.6%	8.3%	2.8%	0.0%	0.0%
2	上大隈	61.5%	69.2%	0.0%	23.1%	15.4%	0.0%	0.0%	7.7%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%
3	江辻	81.0%	33.3%	4.8%	38.1%	19.0%	4.8%	0.0%	9.5%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%
4	戸原	65.6%	34.4%	12.5%	39.1%	20.3%	4.7%	3.1%	7.8%	9.4%	0.0%	1.6%	0.0%
5	長者原上	64.7%	35.3%	17.6%	38.2%	17.6%	0.0%	5.9%	5.9%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%
6	長者原中	69.7%	27.3%	12.1%	36.4%	12.1%	15.2%	0.0%	9.1%	12.1%	6.1%	0.0%	0.0%
7	長者原下	62.5%	18.8%	34.4%	34.4%	15.6%	3.1%	0.0%	18.8%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%
8	内橋一	82.4%	35.3%	29.4%	11.8%	23.5%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9	内橋二	55.0%	25.0%	5.0%	55.0%	15.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%
10	内橋三	50.0%	40.0%	0.0%	10.0%	0.0%	10.0%	20.0%	10.0%	30.0%	20.0%	0.0%	0.0%
11	朝日	50.0%	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
12	長戸	72.0%	20.0%	8.0%	52.0%	24.0%	8.0%	0.0%	8.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13	多の津												
14	サンライフ	71.4%	14.3%	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15	酒殿	61.5%	38.5%	0.0%	57.7%	19.2%	0.0%	3.8%	0.0%	15.4%	3.8%	0.0%	0.0%
16	甲仲原	52.3%	47.7%	9.1%	45.5%	15.9%	6.8%	6.8%	6.8%	4.5%	4.5%	0.0%	0.0%
17	駕輿丁	40.0%	26.7%	20.0%	46.7%	33.3%	20.0%	0.0%	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
18	花ヶ浦	46.0%	44.4%	20.6%	57.1%	7.9%	7.9%	1.6%	3.2%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
19	乙仲原東	56.1%	34.1%	9.8%	58.5%	4.9%	4.9%	4.9%	9.8%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%
20	乙仲原西	59.2%	28.6%	18.4%	59.2%	4.1%	6.1%	2.0%	8.2%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
21	若宮	77.4%	32.3%	9.7%	38.7%	29.0%	0.0%	0.0%	6.5%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%
22	原町	63.0%	20.5%	13.7%	47.9%	23.3%	5.5%	1.4%	12.3%	6.8%	1.4%	1.4%	0.0%
23	阿恵	65.4%	42.3%	11.5%	38.5%	15.4%	11.5%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
24	柚須	52.7%	21.8%	12.7%	49.1%	14.5%	9.1%	1.8%	16.4%	14.5%	3.6%	0.0%	0.0%
25	わからない	52.9%	29.4%	11.8%	58.8%	5.9%	17.6%	5.9%	5.9%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	全体	60.7%	33.1%	13.2%	45.5%	15.6%	7.0%	2.9%	8.8%	9.8%	1.6%	0.3%	0.0%

(6) ハザードマップの既知(問 21)

居住する地域のハザードマップについては、「知っているが、内容はよくわからない」が4割半ばで最も多く、次いで「知っており、内容も理解している」が3割弱となっています。

行政区別でも全体と同様に、「知っているが、内容はよくわからない」が多くなっていますが「上大隈」は「あることすら知らない」が多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（779人）の割合

<行政区別集計結果>

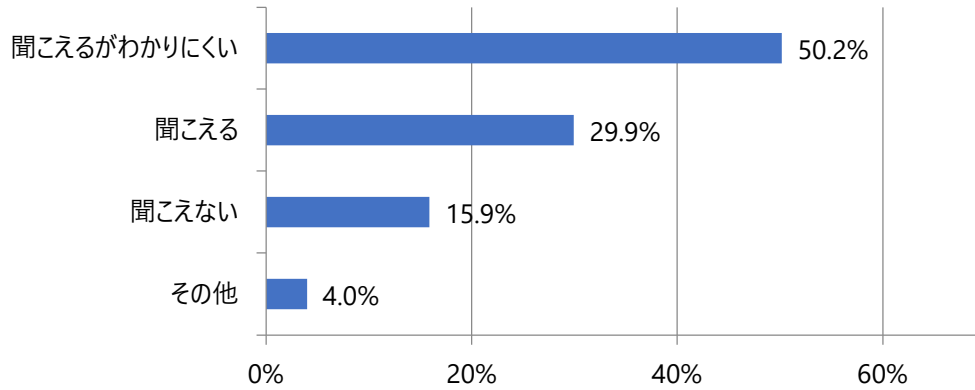
NO	行政区	知っており、 内容も理解している	知っているが、 内容はよくわからない	知っているが、 見たことがない	あることすら知らない
1	大隈	33.3%	38.9%	19.4%	8.3%
2	上大隈	15.4%	30.8%	15.4%	38.5%
3	江辻	22.7%	50.0%	22.7%	4.5%
4	戸原	28.8%	53.0%	15.2%	3.0%
5	長者原上	26.5%	50.0%	11.8%	11.8%
6	長者原中	23.5%	52.9%	17.6%	5.9%
7	長者原下	31.3%	37.5%	28.1%	3.1%
8	内橋一	11.8%	47.1%	23.5%	17.6%
9	内橋二	25.0%	35.0%	30.0%	10.0%
10	内橋三	40.0%	40.0%	10.0%	10.0%
11	朝日	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%
12	長戸	16.0%	68.0%	12.0%	4.0%
13	多の津				
14	サンライフ	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%
15	酒殿	37.0%	37.0%	18.5%	7.4%
16	甲仲原	30.4%	37.0%	21.7%	10.9%
17	駕輿丁	14.3%	57.1%	21.4%	7.1%
18	花ヶ浦	34.9%	47.6%	11.1%	6.3%
19	乙仲原東	43.9%	36.6%	17.1%	2.4%
20	乙仲原西	30.0%	40.0%	20.0%	10.0%
21	若宮	32.3%	35.5%	22.6%	9.7%
22	原町	37.5%	40.3%	16.7%	5.6%
23	阿恵	15.4%	57.7%	19.2%	7.7%
24	袖須	19.6%	46.4%	17.9%	16.1%
25	わからない	17.6%	47.1%	29.4%	5.9%

(7) 防災行政無線の放送(問 22)

地域の防災行政無線放送については、「聞こえるがわかりにくい」が約 5 割で最も多く、次いで「聞こえる」が約 3 割となっています。

行政区別においては、全体と同様に「聞こえるがわかりにくい」「聞こえる」が多くなっていますが、「江辻」では、「聞こえない」が最も多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（805 人）の割合

「その他」の回答内容	回答数
知らない・分からない・聞いたことがない	10
聞こえるが聞き取れない	8
室内では聞こえない	3
等	

<行政区別集計結果>

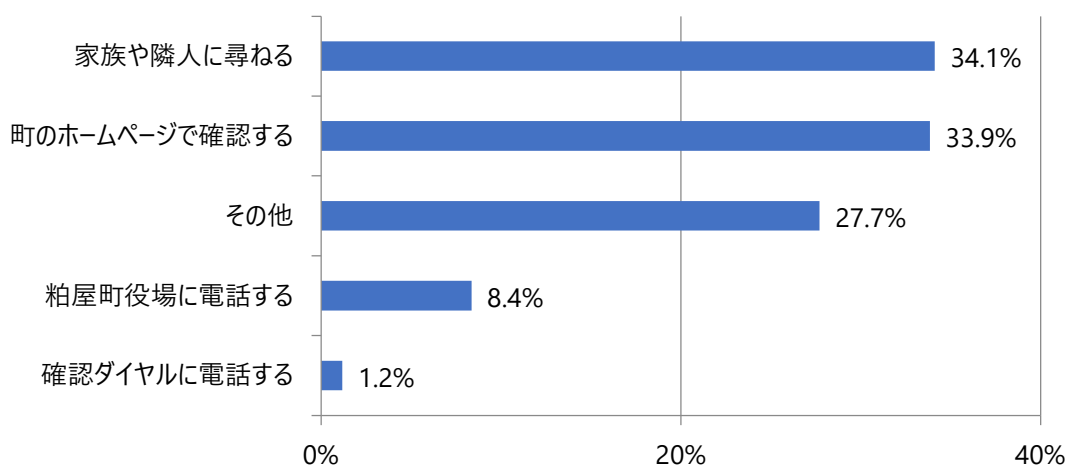
NO	行政区	聞こえる	聞こえるが わかりにくい	聞こえない	その他
1	大隈	45.9%	32.4%	16.2%	5.4%
2	上大隈	35.7%	57.1%	7.1%	0.0%
3	江辻	21.7%	30.4%	43.5%	4.3%
4	戸原	28.1%	57.8%	12.5%	1.6%
5	長者原上	17.6%	61.8%	20.6%	0.0%
6	長者原中	19.4%	66.7%	8.3%	5.6%
7	長者原下	34.4%	59.4%	3.1%	3.1%
8	内橋一	16.7%	44.4%	33.3%	5.6%
9	内橋二	25.0%	55.0%	15.0%	5.0%
10	内橋三	36.4%	36.4%	27.3%	0.0%
11	朝日	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%
12	長戸	28.0%	48.0%	24.0%	0.0%
13	多の津				
14	サンライフ	12.5%	50.0%	25.0%	12.5%
15	酒殿	28.6%	42.9%	17.9%	10.7%
16	甲仲原	42.6%	40.4%	14.9%	2.1%
17	駕輿丁	40.0%	53.3%	6.7%	0.0%
18	花ヶ浦	26.2%	61.5%	9.2%	3.1%
19	乙仲原東	37.2%	51.2%	9.3%	2.3%
20	乙仲原西	18.0%	52.0%	26.0%	4.0%
21	若宮	39.4%	42.4%	15.2%	3.0%
22	原町	30.8%	47.4%	14.1%	7.7%
23	阿恵	40.7%	33.3%	22.2%	3.7%
24	袖須	27.6%	53.4%	13.8%	5.2%
25	わからない	27.8%	44.4%	27.8%	0.0%

(8) 防災行政無線放送の聞き逃し(問 23)

防災行政無線放送を聞き逃した時どうするかについて「家族や隣人に尋ねる」「町のホームページで確認する」が3割半ばで最も多く、次いで「その他」が3割弱となっています。その他の内訳は確認しない、何もしない等の回答になっています。

行政区別においても全体と同様に「家族や隣人に尋ねる」「町のホームページで確認する」が多くなっています。

<全体集計結果>



※回答者（765人）の割合

「その他」の回答内容	回答数
確認しない・何もしない	142
聞こえない	7
防災行政無線放送を知らない	6
等	

<行政区別集計結果>

NO	行政区	町のホームページで 確認する	確認ダイヤルに 電話する	粕屋町役場に 電話する	家族や隣人に 尋ねる	その他
1	大隈	34.3%	2.9%	11.4%	28.6%	22.9%
2	上大隈	26.7%	6.7%	13.3%	26.7%	26.7%
3	江辻	24.0%	4.0%	20.0%	24.0%	28.0%
4	戸原	40.0%	1.5%	4.6%	32.3%	21.5%
5	長者原上	24.2%	0.0%	9.1%	39.4%	27.3%
6	長者原中	29.7%	2.7%	10.8%	35.1%	21.6%
7	長者原下	42.4%	0.0%	6.1%	27.3%	24.2%
8	内橋一	21.1%	0.0%	15.8%	52.6%	10.5%
9	内橋二	38.1%	0.0%	0.0%	42.9%	19.0%
10	内橋三	27.3%	0.0%	27.3%	9.1%	36.4%
11	朝日	42.9%	0.0%	14.3%	28.6%	14.3%
12	長戸	29.6%	0.0%	11.1%	37.0%	22.2%
13	多の津					
14	サンライフ	0.0%	0.0%	25.0%	62.5%	12.5%
15	酒殿	42.3%	0.0%	0.0%	23.1%	34.6%
16	甲仲原	34.8%	2.2%	6.5%	28.3%	28.3%
17	駕輿丁	7.1%	0.0%	14.3%	57.1%	21.4%
18	花ヶ浦	38.7%	1.6%	1.6%	29.0%	29.0%
19	乙仲原東	22.7%	2.3%	6.8%	40.9%	27.3%
20	乙仲原西	33.3%	0.0%	6.3%	27.1%	33.3%
21	若宮	41.2%	0.0%	11.8%	35.3%	11.8%
22	原町	31.6%	0.0%	7.6%	27.8%	32.9%
23	阿恵	28.6%	3.6%	14.3%	32.1%	21.4%
24	柚須	23.2%	0.0%	1.8%	37.5%	37.5%
25	わからない	52.9%	0.0%	5.9%	17.6%	23.5%